

令和 8 年熊本地震※¹の評価

- 7 月 28 日 16 時 27 分に熊本県熊本地方の深さ約 15 km でマグニチュード(M)7.1 (暫定値) の地震が発生した。この地震により熊本県で最大震度 7 を観測し、被害を伴った。また、熊本県で長周期地震動階級 4 を観測した。この地震の発震機構は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した地震である。
- この地震の後も活発な地震活動が継続しており、北東－南西に延びる 50 km 程度の範囲に広がっている。29 日 14 時までの最大の地震は、28 日 17 時 08 分に発生した M6.1 の地震であり、最大震度 1 以上を観測した地震が 194 回発生した。
- M7.1 の地震に伴い、熊本県の KiK-net 三角（みすみ）観測点及び熊本県宇城市豊野町（とよのまち）の自治体震度観測点でそれぞれ 1,667 gal 及び 2,438 gal（共に三成分合成）など、大きな加速度を観測した。
- GNS S 観測によると、M7.1 の地震に伴って、熊本県八代市の千丁（せんちょう）観測点が北東方向に約 87 cm 移動するなど、熊本県を中心に広い範囲で地殻変動が観測された。また、「だいち 2 号」の合成開口レーダー干渉解析結果によると、今回の地震活動域付近に大きな地殻変動がみられる。
- 地殻変動観測、地震波を用いた解析から推定される M7.1 の震源断層は、破壊開始点から浅部に広がっており、長さは約 30 km であると推定される。
- 今回の地震活動域付近には布田川断層帯・日奈久断層帯が存在している。今回の地震活動は、日奈久断層帯の 3 つの区間（高野－白旗区間、日奈久区間、八代海区间）のうち、主に高野－白旗区間及び日奈久区間に沿って分布している。M7.1 の震源断層は、日奈久断層帯の日奈久区間の北東部及び高野－白旗区間の一部に及んでいると考えられる。
- 今回の地震活動域の北東には「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の地震活動域が熊本県熊本地方から大分県中部に存在する。熊本県阿蘇地方から今回の地震活動を含む領域では、「平成 28 年（2016 年）熊本地震」発生以前に比べ、地震活動が活発な状態が継続していた。
- 地震調査委員会は、日奈久断層帯の高野－白旗区間及び日奈久区間について、活動時にそれぞれ M6.8 程度、M7.5 程度の地震が発生する可能性があり、30 年以内の地震発生確率はそれぞれ X ランク（不明）、S*ランク（高い）※²と評価していた。また、日奈久断層帯を含む九州南部の区域では、M6.8 以上の地震の発生確率は

7-18%と評価していた。

- この地域では過去に、大地震発生から1週間程度の間と同程度の地震が続発した事例があることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度7程度の地震に注意が必要である。特に地震発生から2～3日程度は、強い揺れをもたらす地震が発生することが多くある。今回の地震活動域は広範囲に広がっており、地震が発生する場所や規模によっては今回の地震（M7.1）による揺れよりも強く揺れる場合がある。また、海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波に注意する必要がある。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

※1：「令和8年熊本地震」（気象庁が定めた名称）は、令和8年7月28日に熊本県熊本地方で発生したM7.1の地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動を指す。

※2：活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難）を「Xランク」と表記している。地震後経過率※3が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。Zランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。

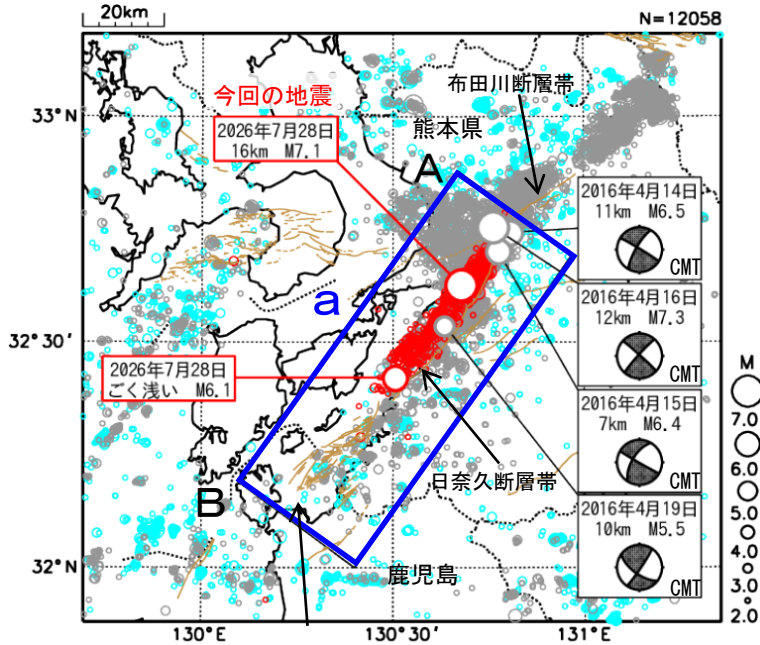
※3：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

「令和 8 年熊本地震」

震央分布図

(2000 年 10 月 1 日～2026 年 7 月 29 日 13 時、
深さ 0 ～ 20km、 $M \geq 2.0$)

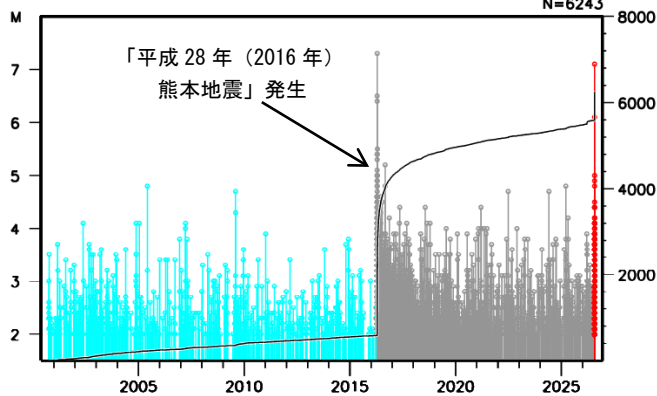
2016 年 4 月 14 日 21 時より前に発生した地震を薄青色○、
2016 年 4 月 14 日 21 時以降に発生した地震を灰色○、
2026 年 7 月 28 日 16 時 27 分以降に発生した地震を赤色○で表示
2026 年 7 月 29 日の地震は速報値を含む。



図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す

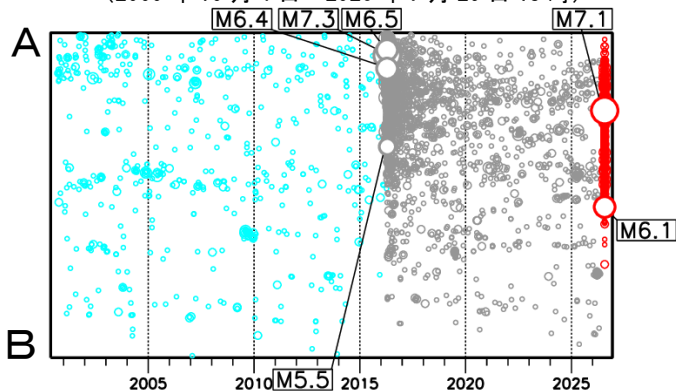
領域 a 内の M-T 図及び回数積算図

(2000 年 10 月 1 日～2026 年 7 月 29 日 13 時)



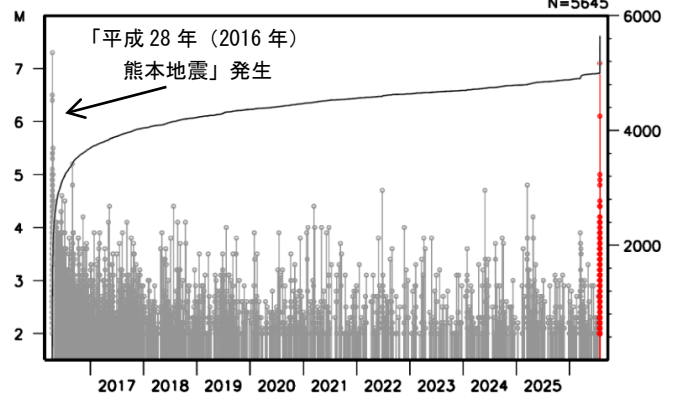
領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)

(2000 年 10 月 1 日～2026 年 7 月 29 日 13 時)



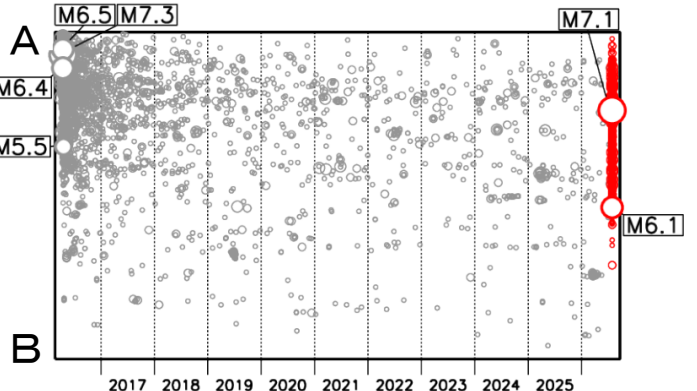
領域 a 内の M-T 図及び回数積算図

(2016 年 4 月 14 日 21 時 26 分～2026 年 7 月 29 日 13 時)



領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)

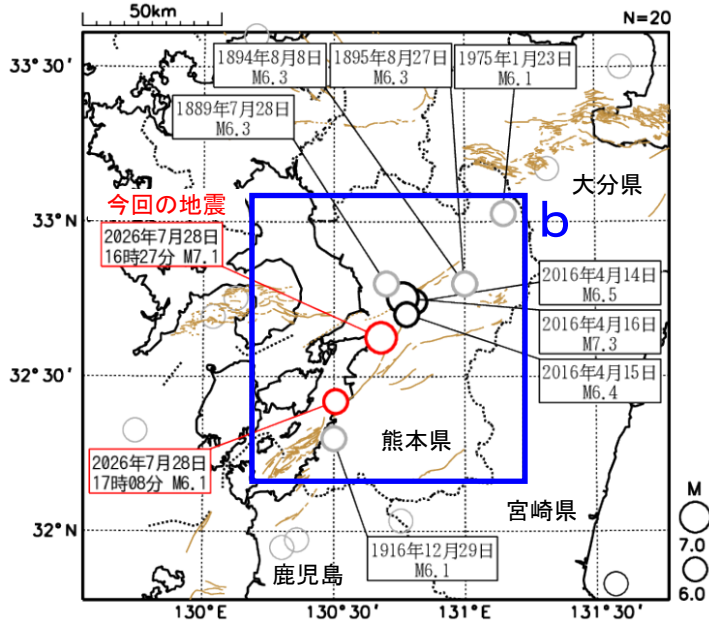
(2016 年 4 月 14 日 21 時 26 分～2026 年 7 月 29 日 13 時)



震央分布図

(1885年1月1日～2026年7月29日13時、
深さ0～50km、 $M \geq 6.0$)

2016年4月14日21時より前に発生した地震を灰色○、
2016年4月14日21時以降に発生した地震を黒色○、
2026年7月28日以降に発生した地震を赤色○で表示

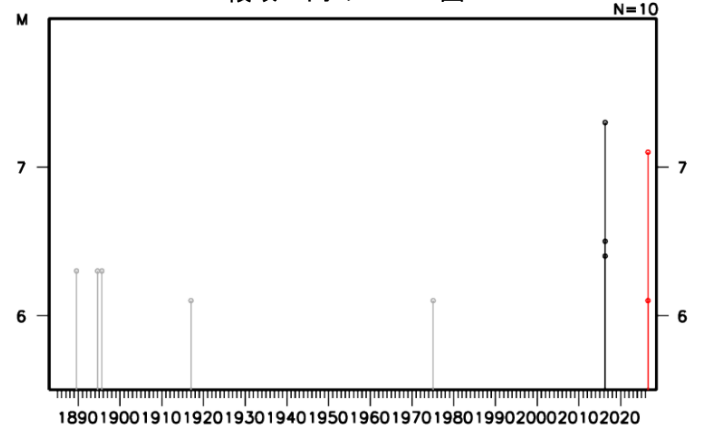


図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す

(震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津
(2001)、宇津(1982, 1985)による※)

1885年以降の活動をみると、今回の地震の震
央周辺（領域b）では、 $M6.0$ 以上の地震が10回
発生している。このうち、1889年7月28日には
 $M6.3$ の地震が発生し、熊本県で死者19人、家屋
全倒234棟などの被害が生じた（被害は「日本被
害地震総覧」による）。

領域b内のM-T図



※宇津徳治 (1982)：日本付近の $M6.0$ 以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年，震研彙報，57，401-463.

宇津徳治 (1985)：日本付近の $M6.0$ 以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年（訂正と追加），震研彙報，60，639-642.

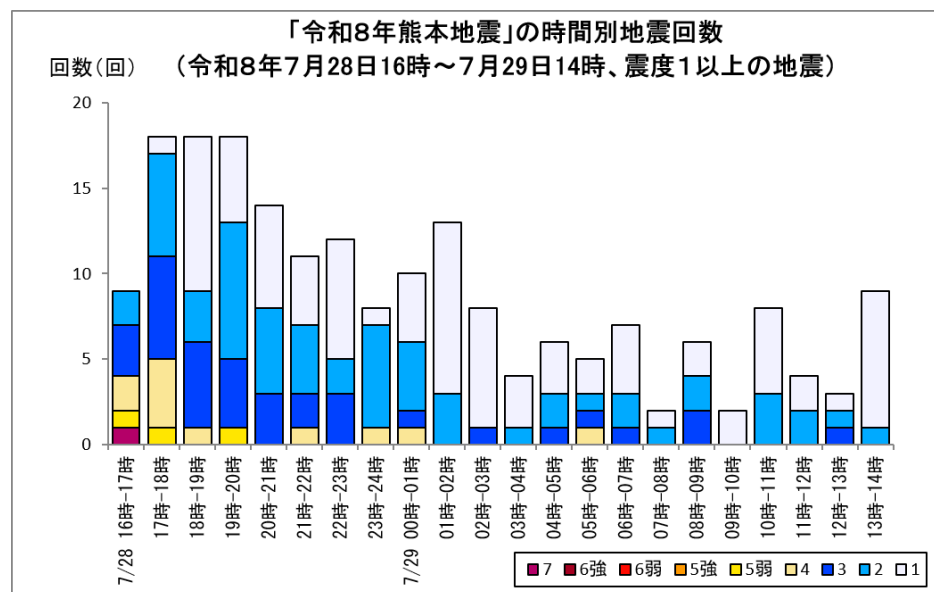
茅野一郎・宇津徳治 (2001)：日本の主な地震の表，「地震の事典」第2版，朝倉書店，657pp.

震度1以上の地震の発生状況

【最大震度別・時間別地震回数表】
(7月28日16時～7月29日14時)

時間別	最大震度別回数										震度1以上を観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
7/28 16時-17時	0	2	3	2	1	0	0	0	1		9	9
17時-18時	1	6	6	4	1	0	0	0	0		18	27
18時-19時	9	3	5	1	0	0	0	0	0		18	45
19時-20時	5	8	4	0	1	0	0	0	0		18	63
20時-21時	6	5	3	0	0	0	0	0	0		14	77
21時-22時	4	4	2	1	0	0	0	0	0		11	88
22時-23時	7	2	3	0	0	0	0	0	0		12	100
23時-24時	1	6	0	1	0	0	0	0	0		8	108
7/29 00時-01時	4	4	1	1	0	0	0	0	0		10	118
01時-02時	10	3	0	0	0	0	0	0	0		13	131
02時-03時	7	0	1	0	0	0	0	0	0		8	139
03時-04時	3	1	0	0	0	0	0	0	0		4	143
04時-05時	3	2	1	0	0	0	0	0	0		6	149
05時-06時	2	1	1	1	0	0	0	0	0		5	154
06時-07時	4	2	1	0	0	0	0	0	0		7	161
07時-08時	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	163
08時-09時	2	2	2	0	0	0	0	0	0		6	169
09時-10時	2	0	0	0	0	0	0	0	0		2	171
10時-11時	5	3	0	0	0	0	0	0	0		8	179
11時-12時	2	2	0	0	0	0	0	0	0		4	183
12時-13時	1	1	1	0	0	0	0	0	0		3	186
13時-14時	8	1	0	0	0	0	0	0	0		9	195
総計	87	59	34	11	3	0	0	0	1			195

【時間別地震回数図】



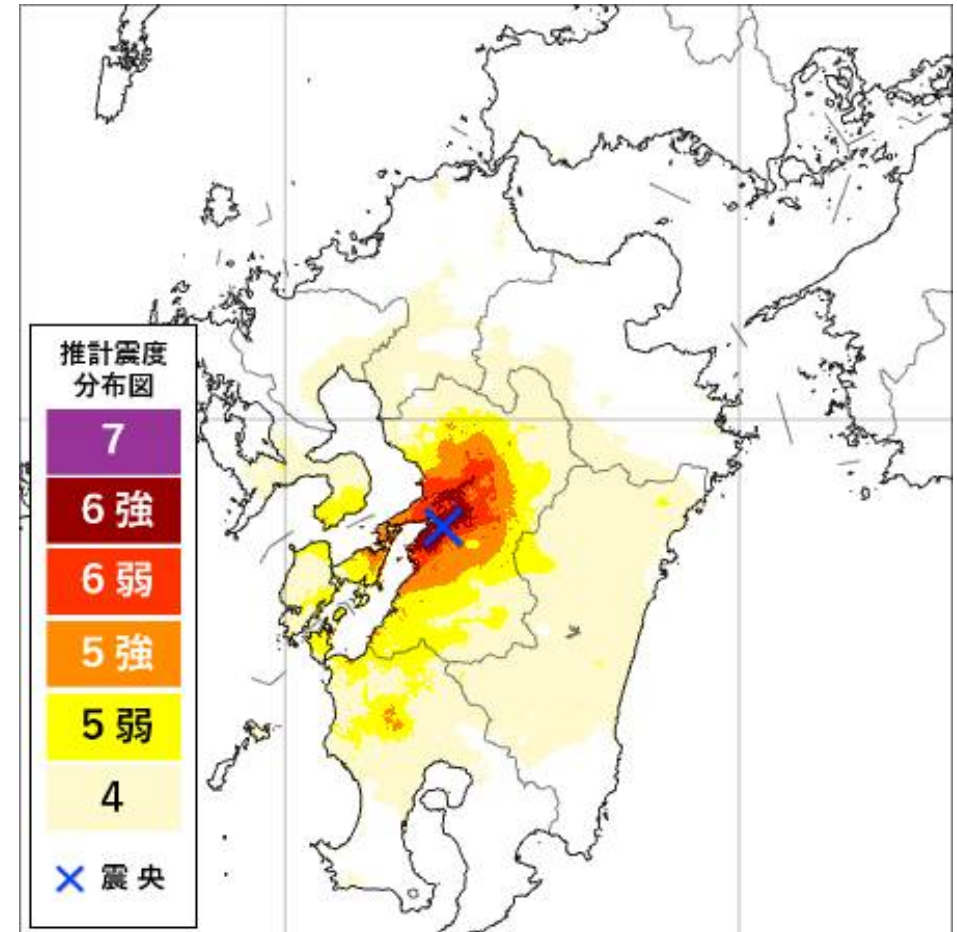
※掲載している地震回数は速報値であり、後日の調査で変更になることがある。

震度分布図・推計震度分布図

【各地域の震度】



推計震度分布図



最新の情報は、以下のページでご確認ください。

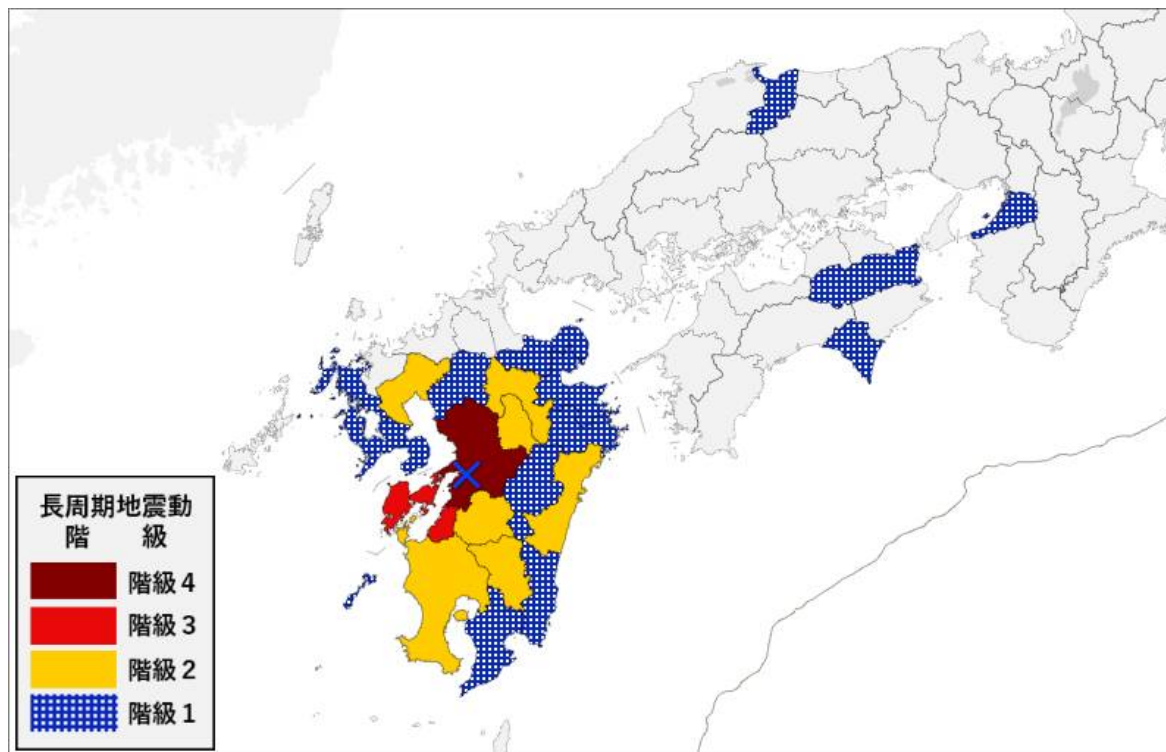
地震情報:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map

推計震度分布図:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

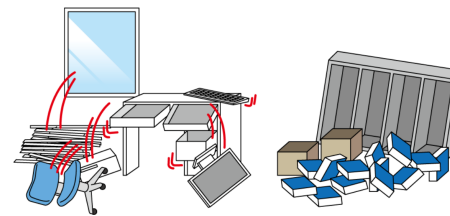
長周期地震動階級の観測状況

階級	地域名称
階級4	熊本県熊本
階級3	熊本県天草・芦北

7月28日16時37分発表



階級4



立っていることができない

階級2



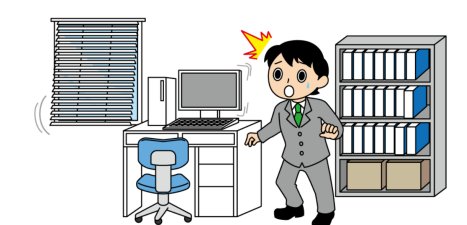
物につかまりたいと感じる

階級3



立っていることが困難

階級1



ほとんどの人が揺れを感じる

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

長周期地震動に関する観測情報:<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>

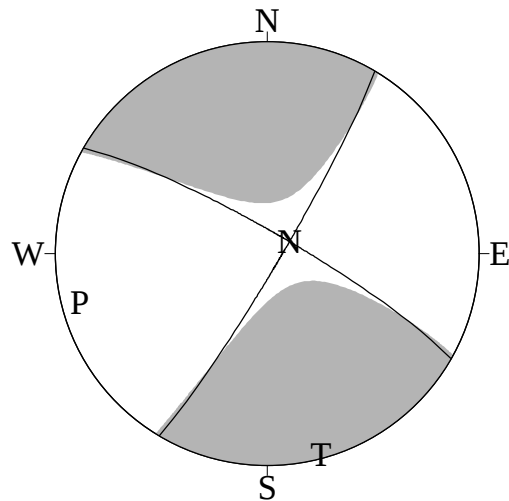
発震機構解

07281627

北北西 - 南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型

[CMT解]

Mw=6.8



下半球等積投影法で描画

P：圧力軸の方向

T：張力軸の方向

セントロイドの位置

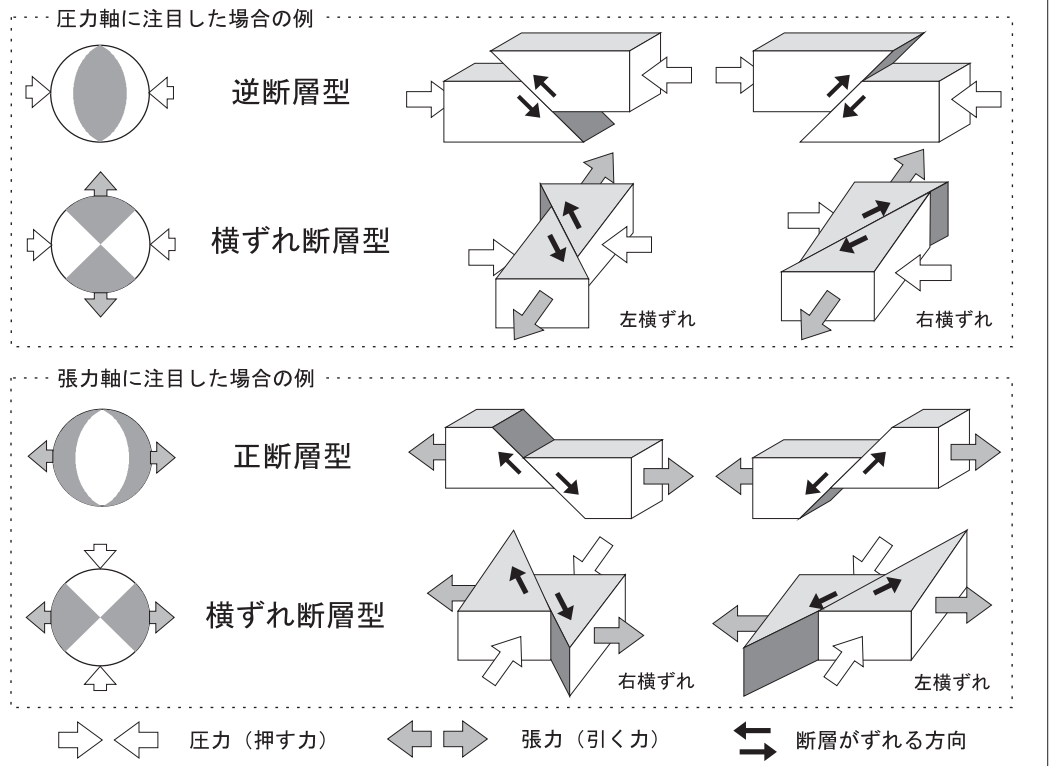
北緯 32度34分

東経 130度42分

深さ 約15km

セントロイドの位置とは、
地震の断層運動を1点で
代表させた場合の位置。

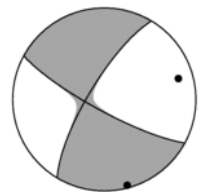
発震機構解 [CMT解] について



気象庁作成

令和8年熊本地震（F-netによるメカニズム解）

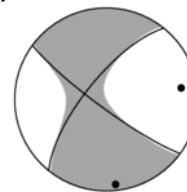
2026/07/28 16:27 (Mw 6.7, 深さ17km, 暫定解)
北北西-南南東方向に伸張軸を持つ横ずれ断層



Mw = 6.7
Mo [Nm] = 1.12e+19
NP1: (211, 76, -170)
NP2: (118, 80, -14)
Var. Red = 89.73
Percent DC = 96
Percent CLVD = 4
Variance = 3.68e-04
RES/Pdc. = 3.85e-06

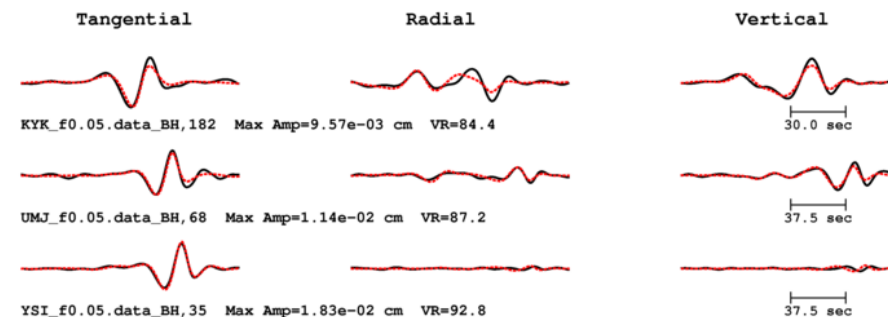
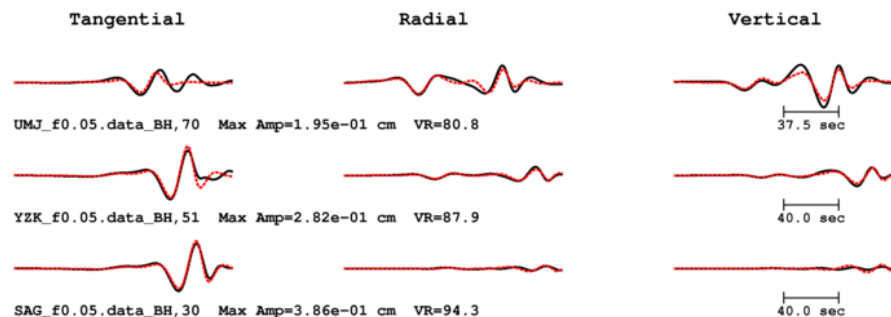
— Obs.
..... Syn.

07/28 17:08 (Mw 5.7, 深さ8km, 暫定解)
南北方向に伸張軸を持つ横ずれ断層



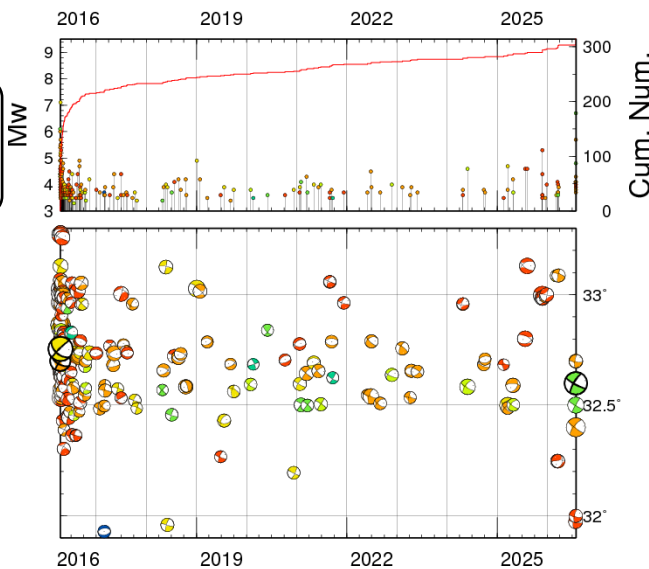
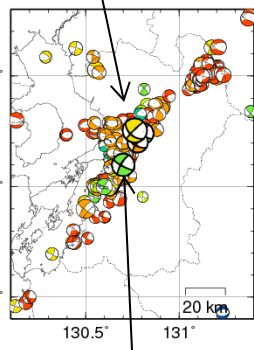
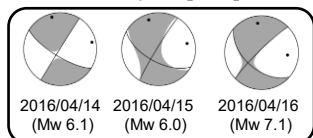
Mw = 5.7
Mo [Nm] = 3.88e+17
NP1: (219, 72, -172)
NP2: (126, 82, -18)
Var. Red = 89.30
Percent DC = 80
Percent CLVD = 20
Variance = 8.28e-07
RES/Pdc. = 1.03e-08

— Obs.
..... Syn.



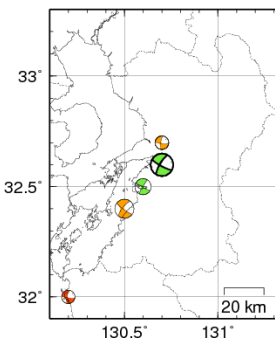
0 5 10 15 20 25

Depth [km]



0 5 10 15 20 25

Depth [km]



0 5 10 15 20 25

Depth [km]

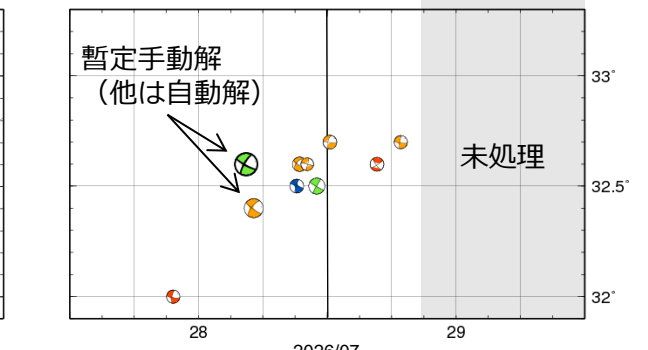
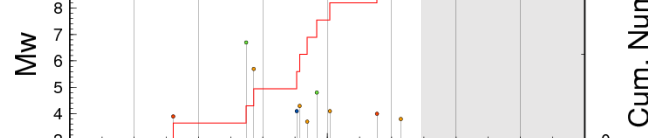


図1 F-netモーメントテンソル解カタログによる2016年4月14日以降の周辺の地震活動（深さ25km以浅）. Mw 6.0以上の地震を太線で示す.

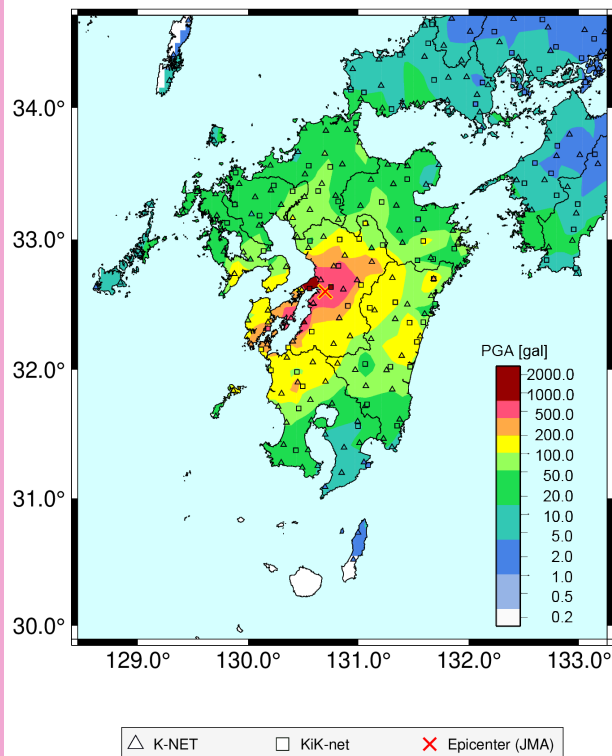
図2 図1のうち2026年7月28日以降の地震.

令和8年熊本地震による強震動

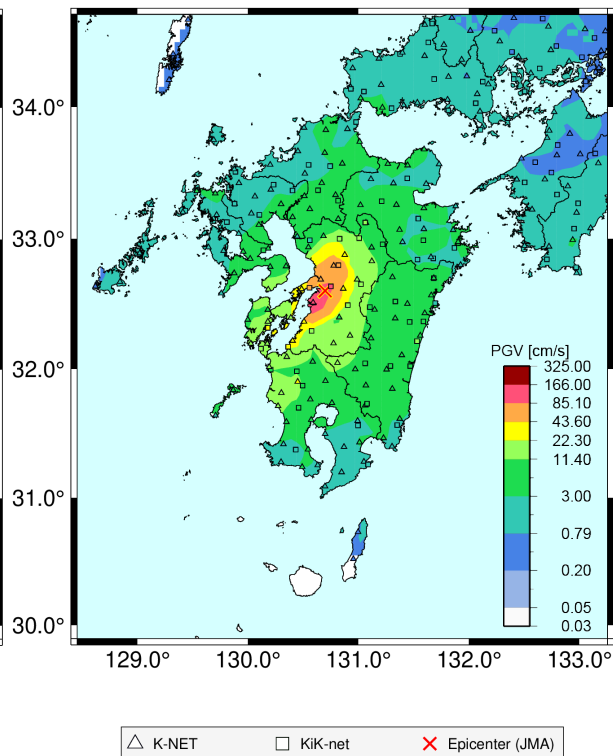
2026年7月28日16時27分, 深さ16km, M7.1 (気象庁による)

K-NET・KiK-netで記録された最大の地表最大加速度は
KiK-net三角 (KMMH07) 観測点 (熊本県宇城市) での
1,667 gal (三成分合成値)

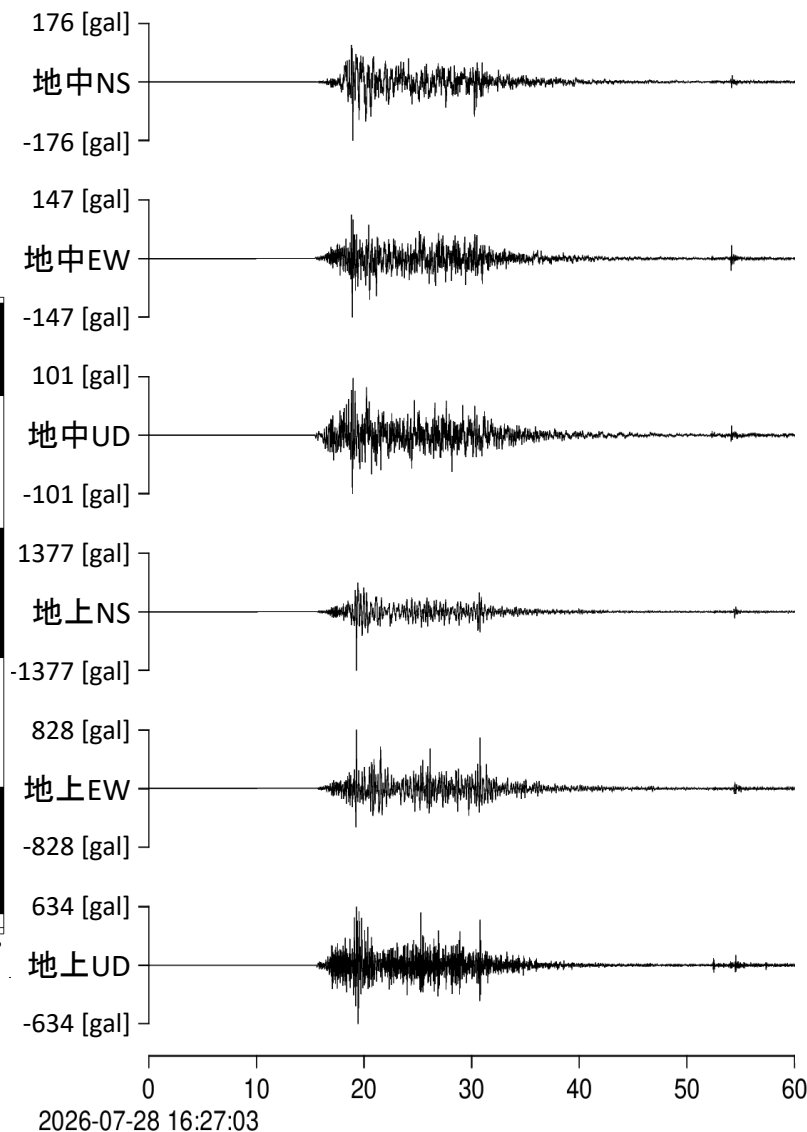
地表最大加速度



地表最大速度

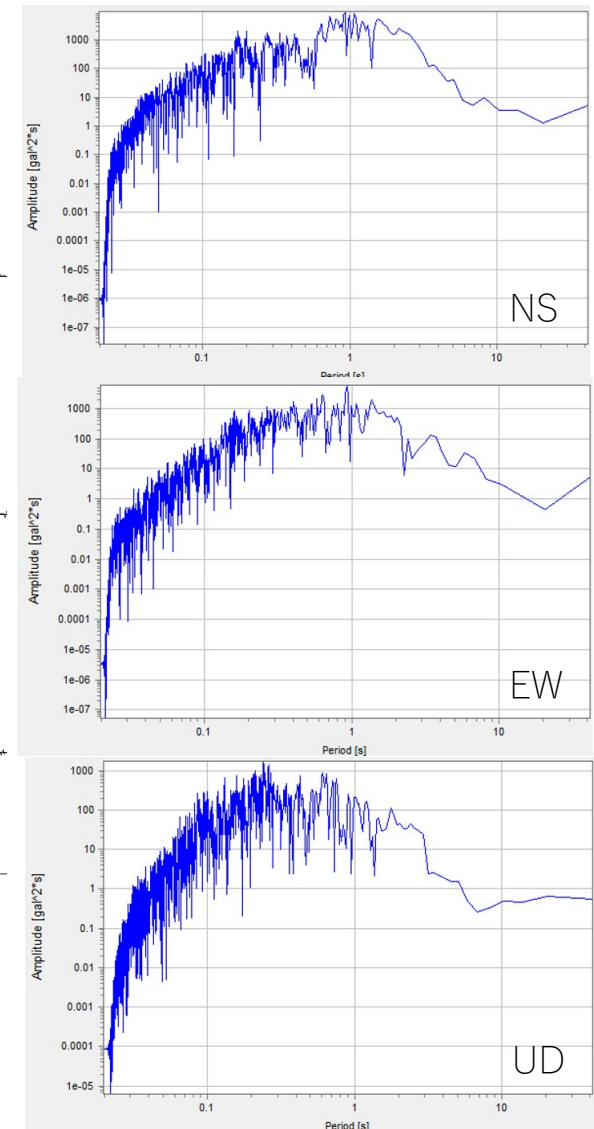
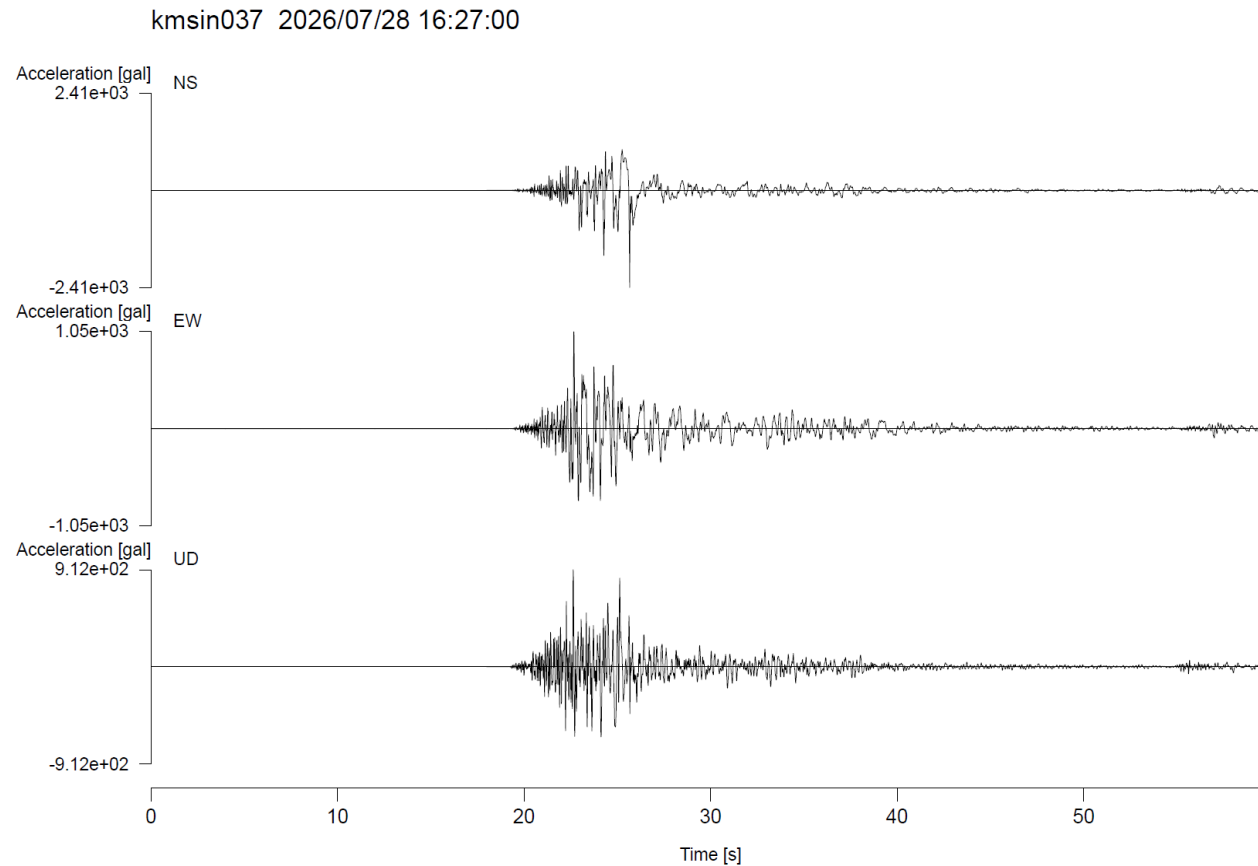


KiK-net三角での加速度波形



宇城市豊野町（加速度波形）

合成最大加速度：2437.8gal

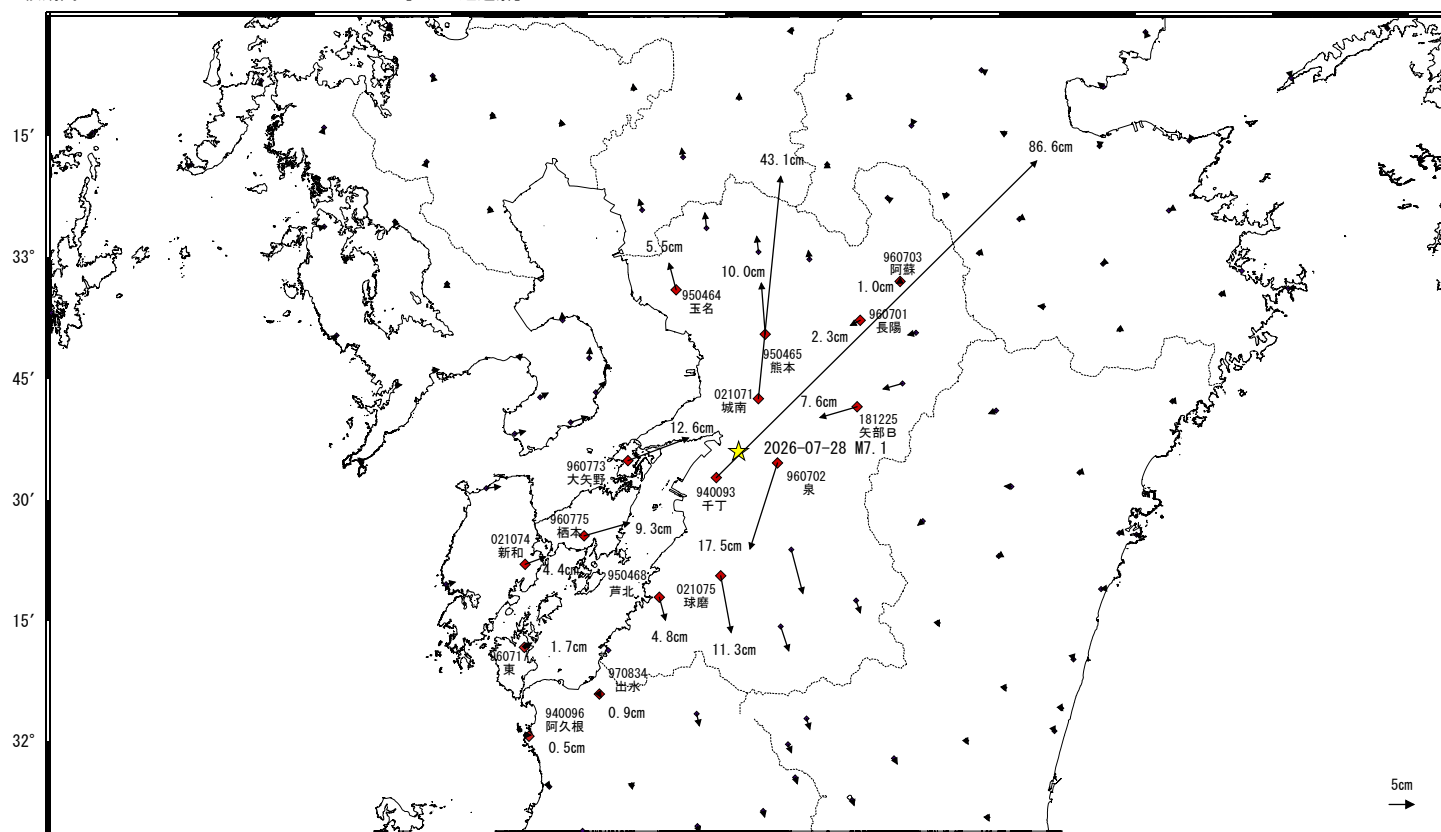


熊本県が設置した震度計の波形データを活用した。
スペクトルの描画は、（国研）防災科学技術研究所のSMDA2を使用した。

令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の地殻変動(暫定)

地殻変動(水平)

基準期間:2026-07-21 00:00~2026-07-27 23:59[R5.1:速報解]
比較期間:2026-07-28 21:00~2026-07-29 05:59[Q5.1:迅速解]

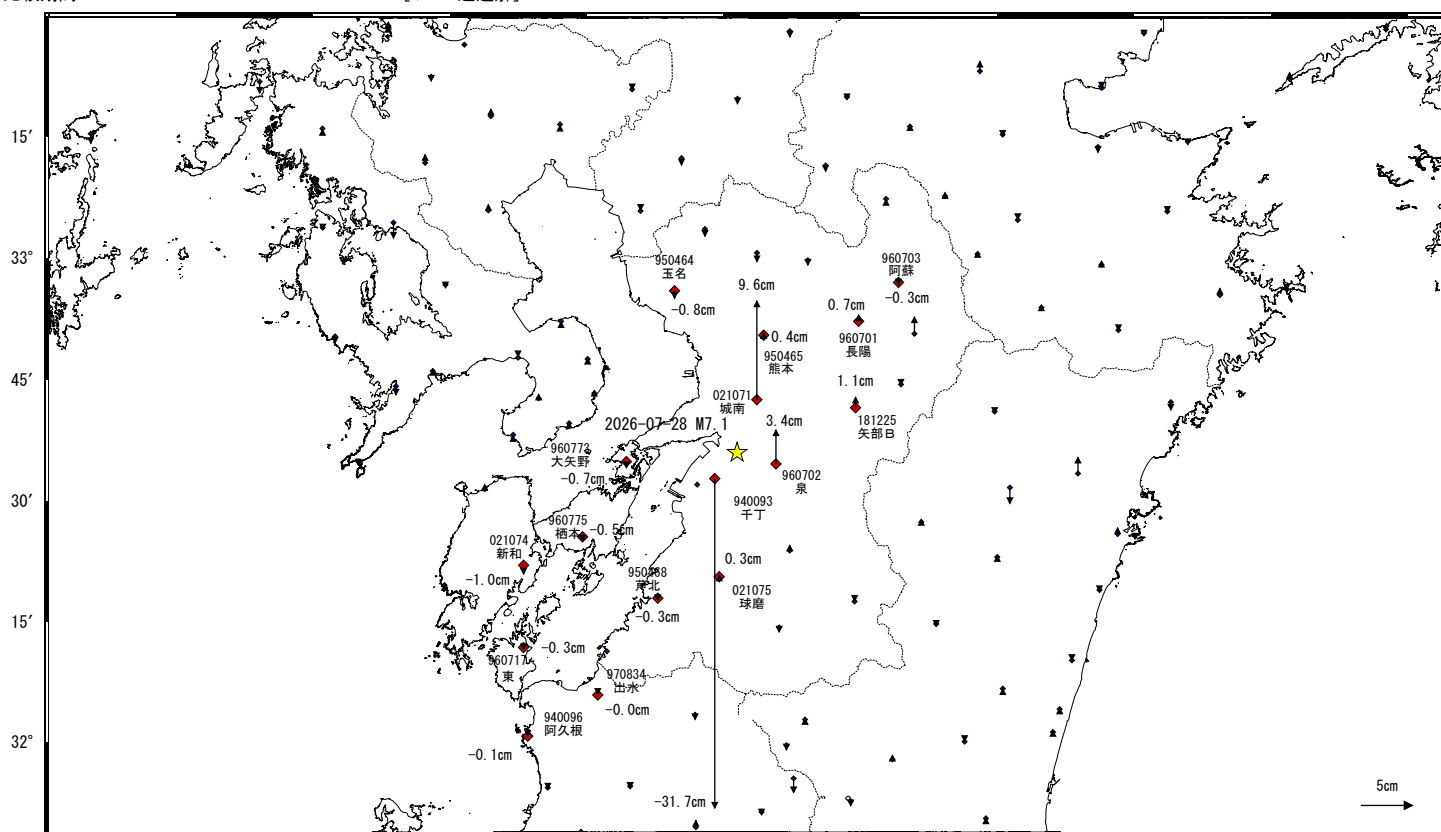


- ★ 震央
- ☆ 固定局: 上対馬(950456) (長崎県)
- ◆ 観測局 (グラフ表示)

令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の地殻変動(暫定)

地殻変動(上下)

基準期間:2026-07-21 00:00~2026-07-27 23:59[R5.1:速報解]
比較期間:2026-07-28 21:00~2026-07-29 08:59[Q5.1:迅速解]



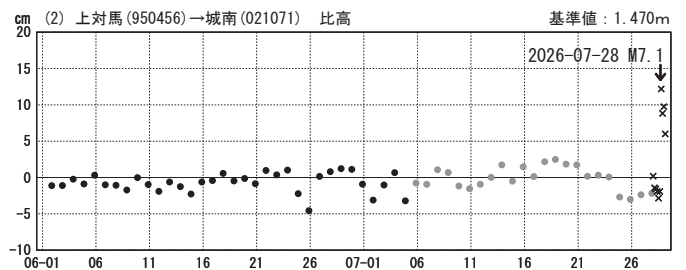
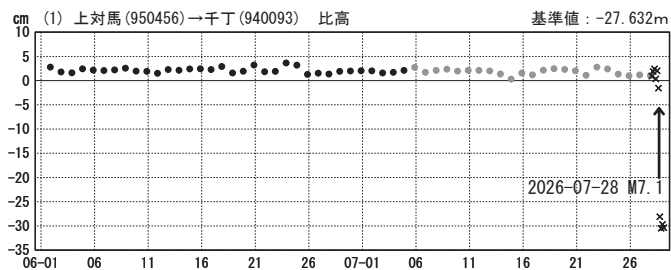
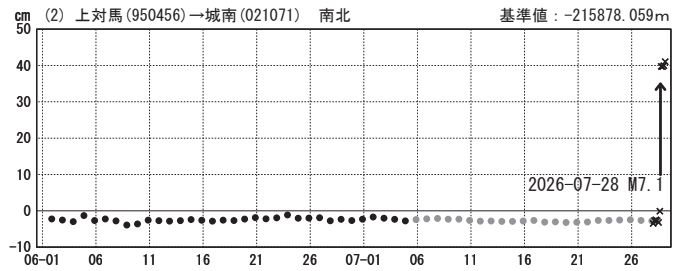
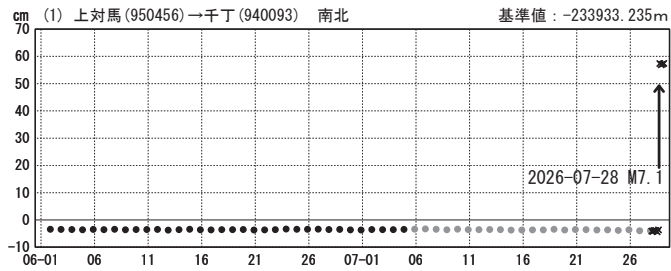
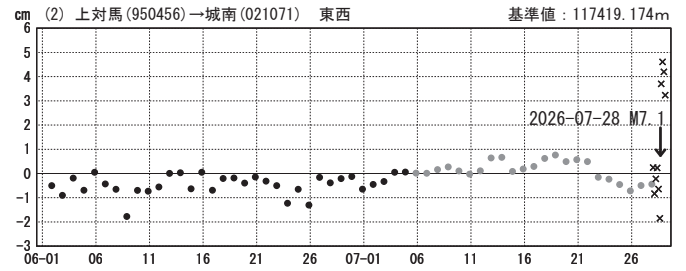
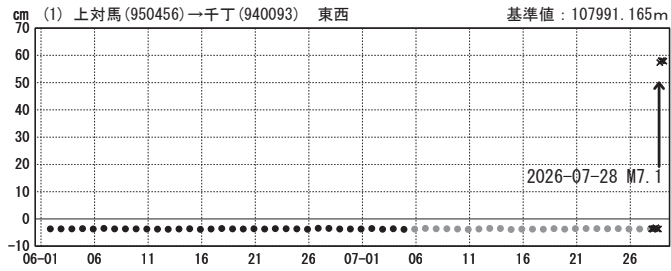
- ★ 震央
- ☆ 固定局: 上対馬(950456) (長崎県)
- ◆ 観測局 (グラフ表示)

令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

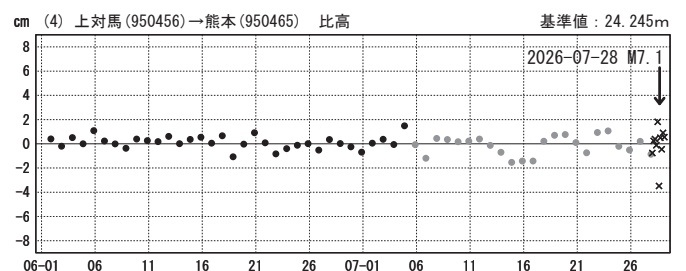
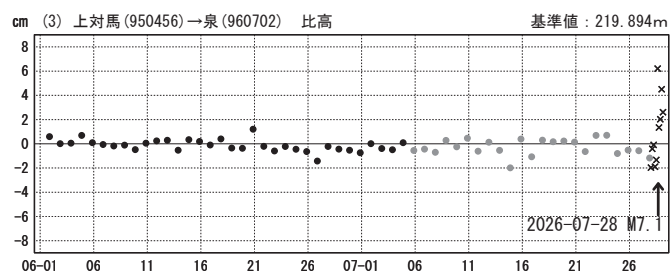
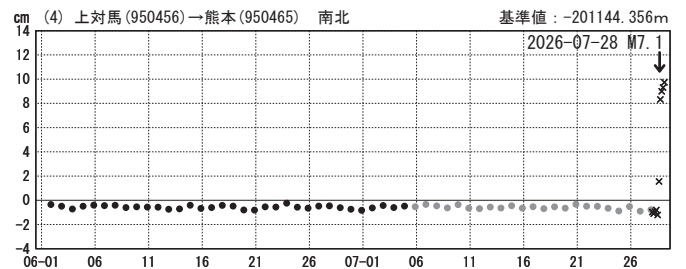
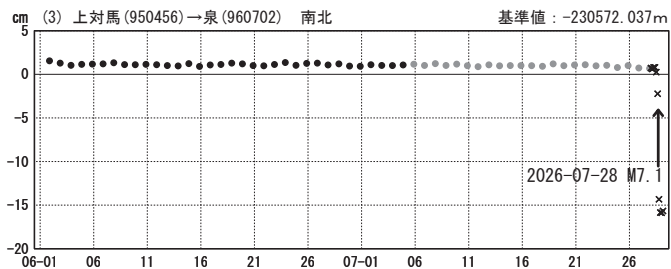
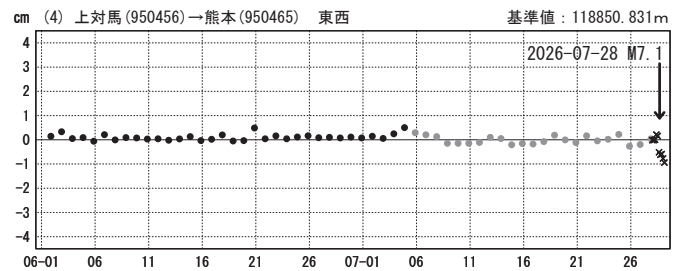
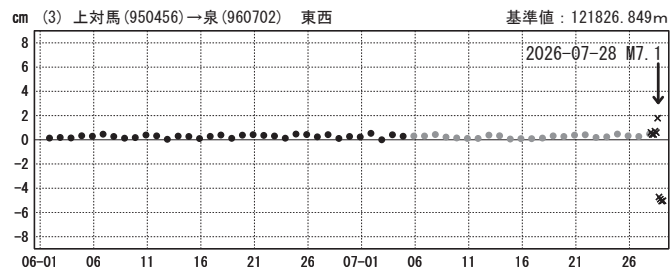
期間：2026-06-01～2026-07-29 JST

期間：2026-06-01～2026-07-29 JST



期間：2026-06-01～2026-07-29 JST

期間：2026-06-01～2026-07-29 JST



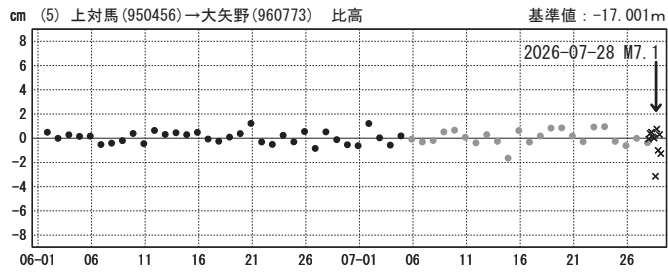
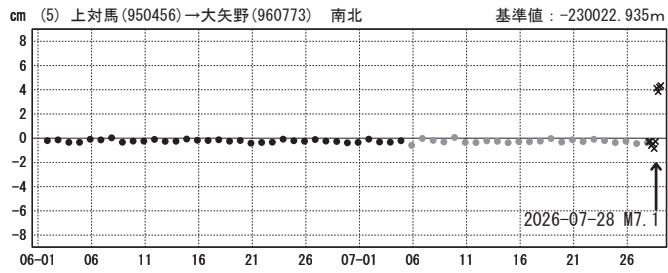
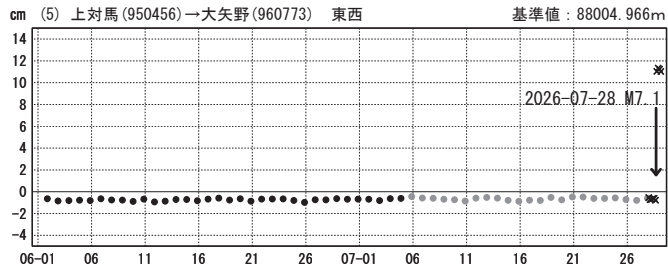
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解] ×---[Q5.1:迅速解]

国土地理院

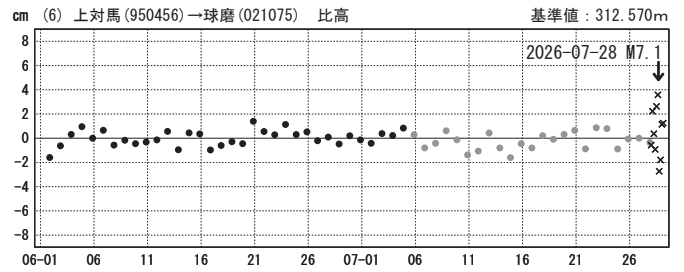
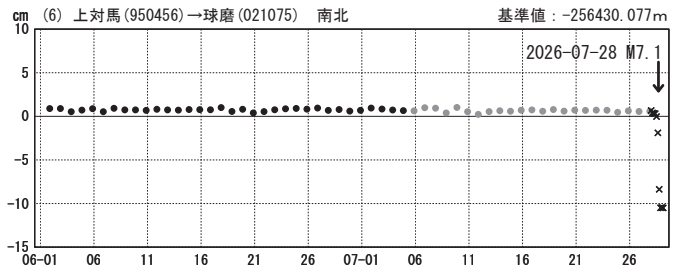
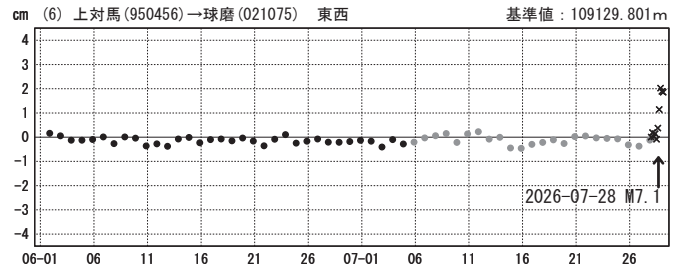
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

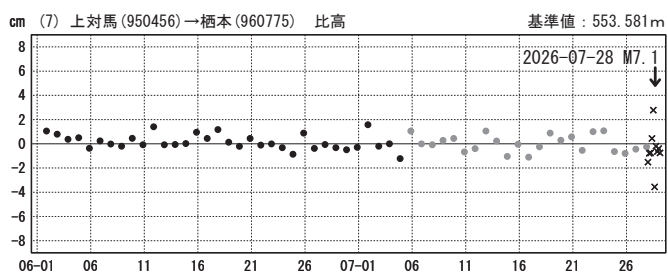
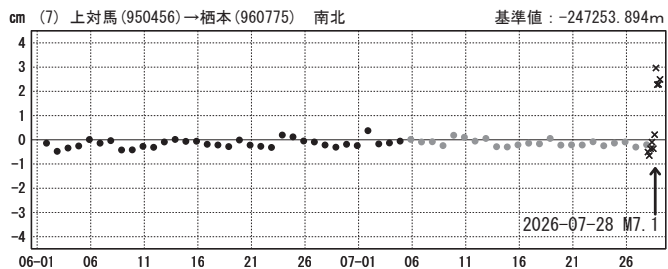
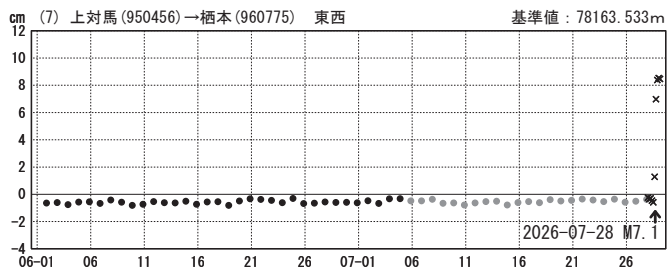
期間: 2026-06-01~2026-07-29 JST



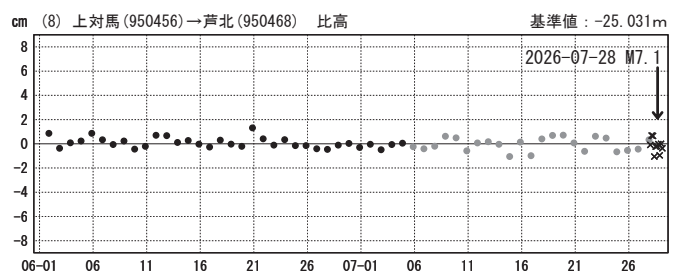
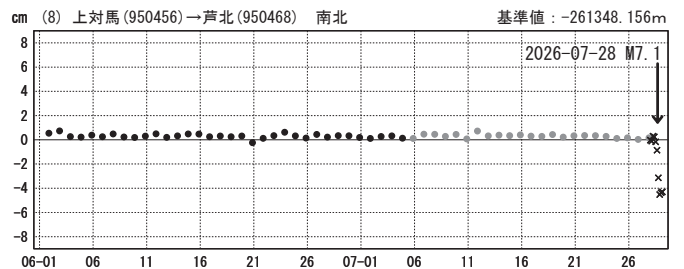
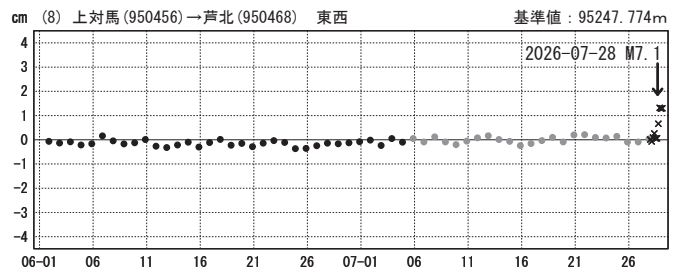
期間: 2026-06-01~2026-07-29 JST



期間: 2026-06-01~2026-07-29 JST



期間: 2026-06-01~2026-07-29 JST



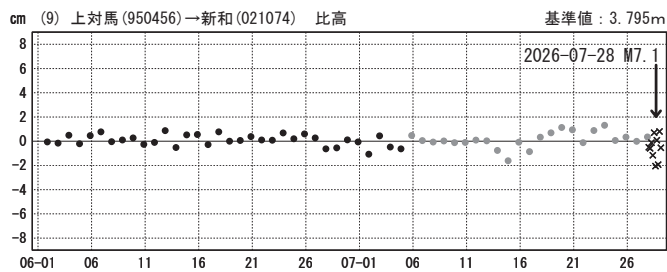
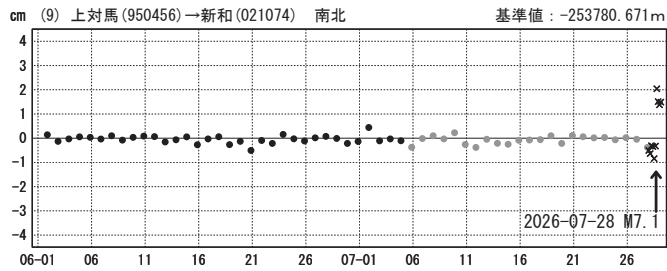
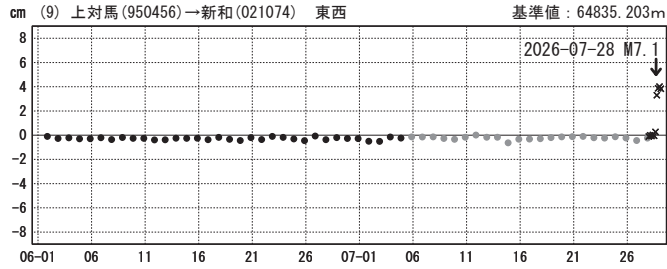
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解] ×---[Q5.1:迅速解]

国土地理院

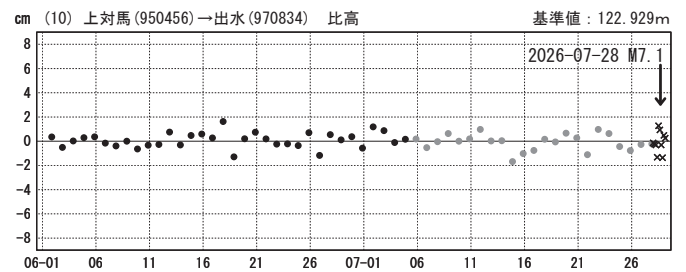
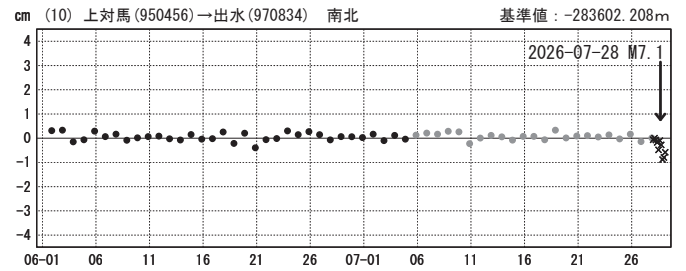
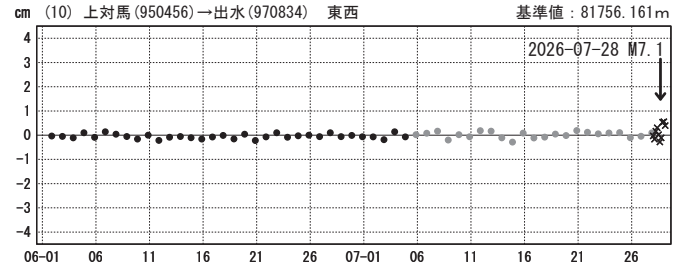
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

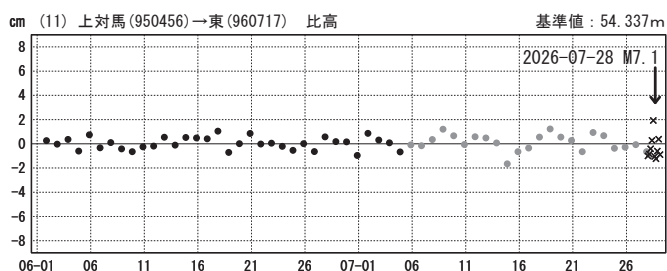
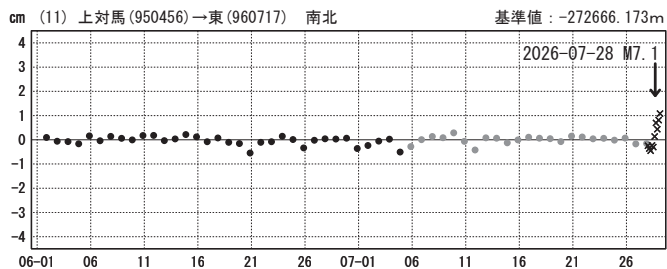
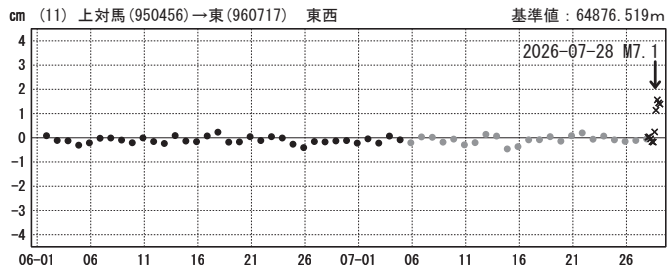
期間：2026-06-01～2026-07-29 JST



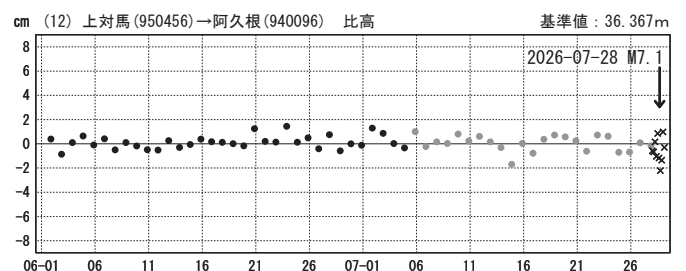
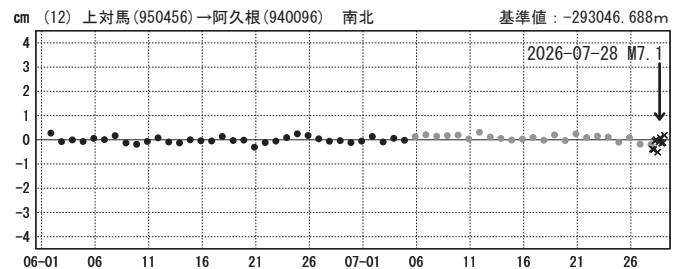
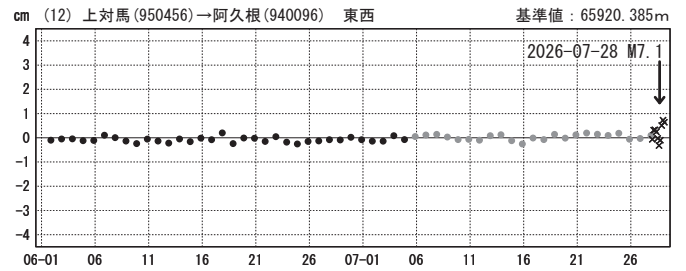
期間：2026-06-01～2026-07-29 JST



期間：2026-06-01～2026-07-29 JST



期間：2026-06-01～2026-07-29 JST



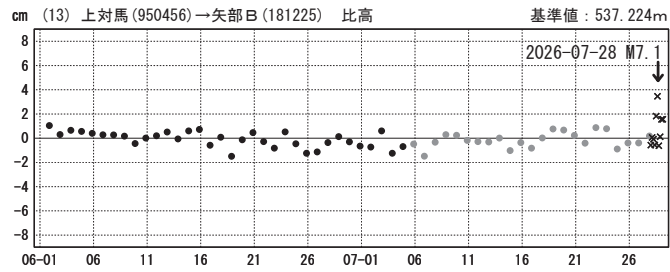
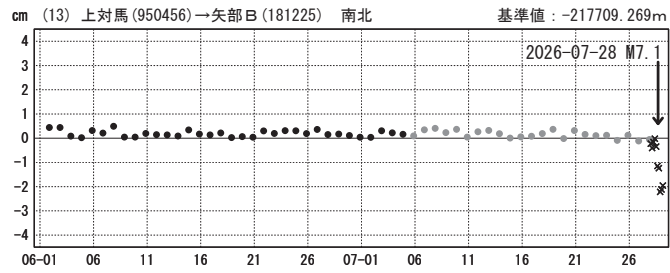
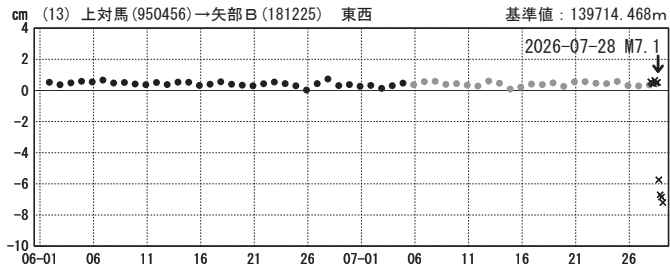
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解] ×—[Q5.1:迅速解]

国土地理院

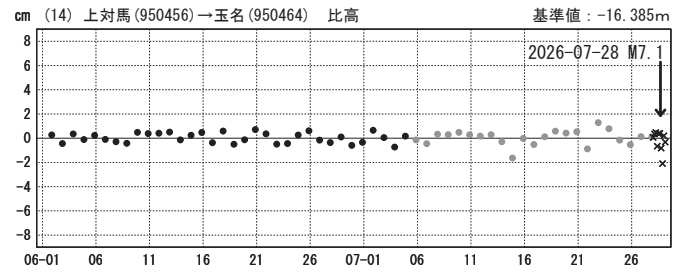
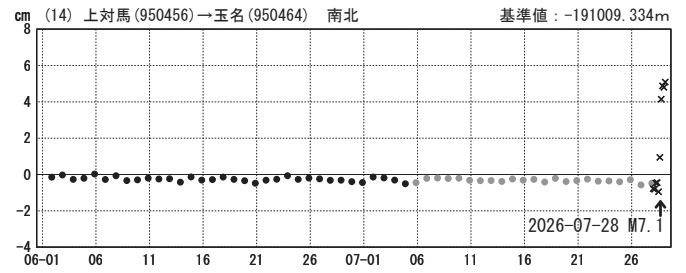
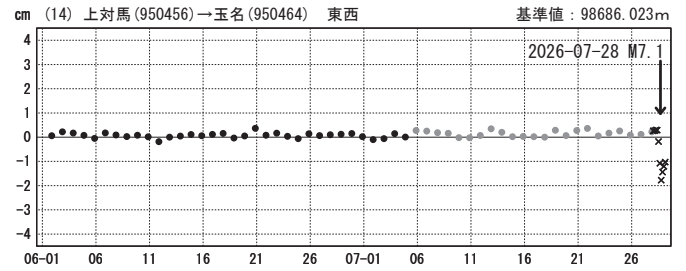
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

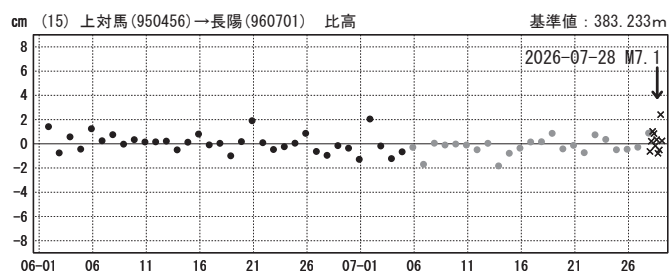
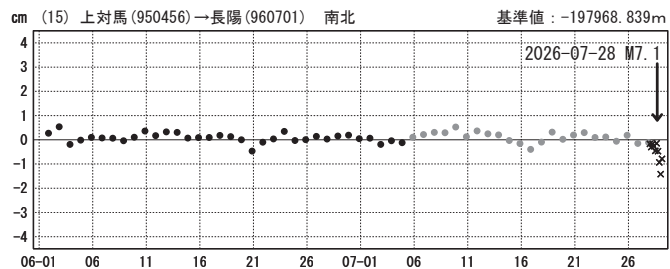
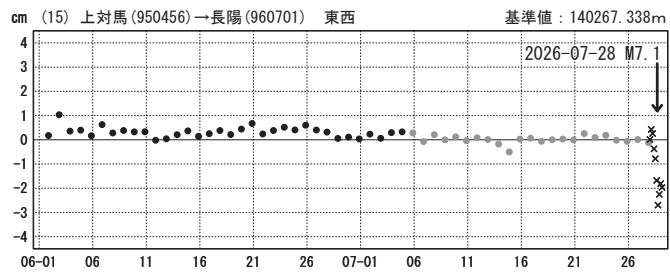
期間: 2026-06-01~2026-07-29 JST



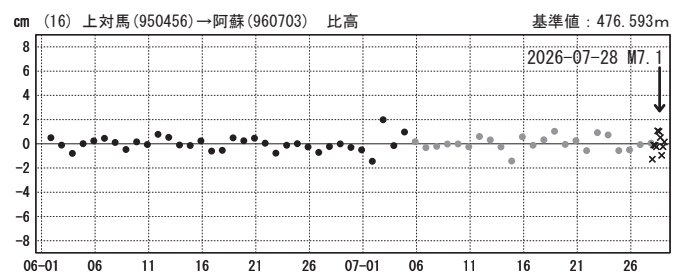
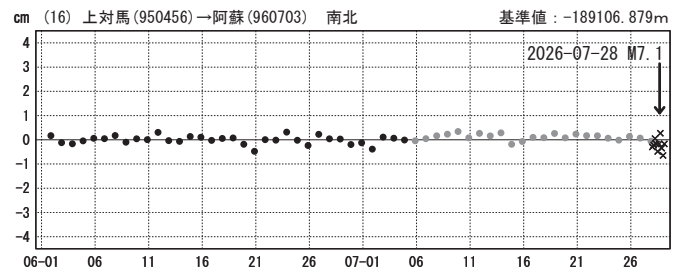
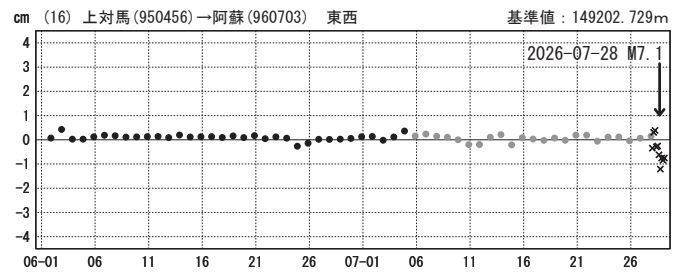
期間: 2026-06-01~2026-07-29 JST



期間: 2026-06-01~2026-07-29 JST



期間: 2026-06-01~2026-07-29 JST



●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解] ×---[Q5.1:迅速解]

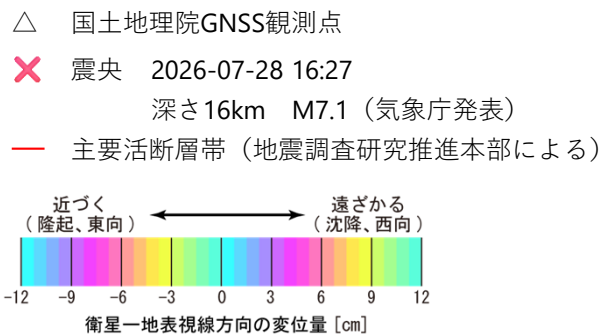
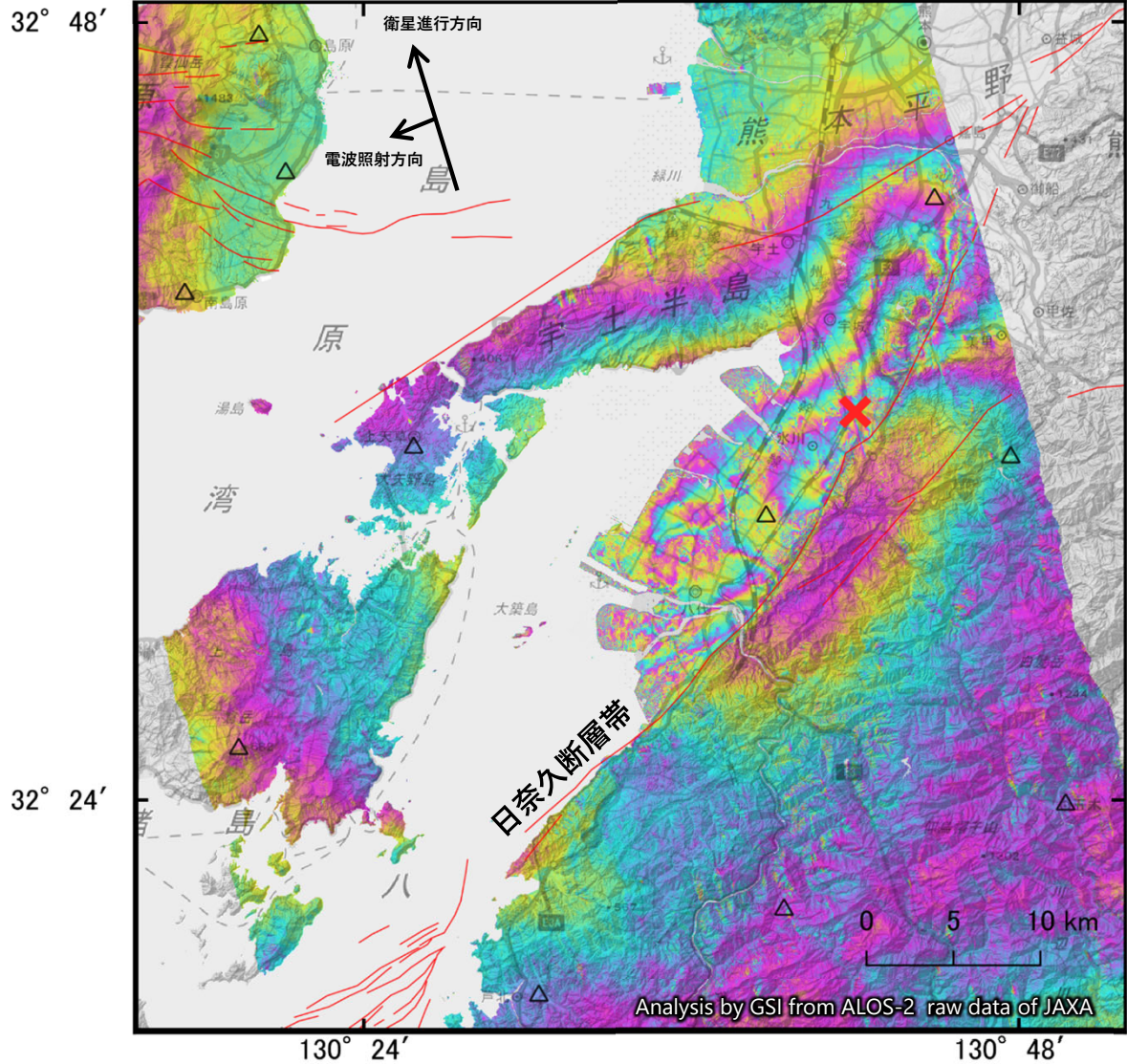
国土地理院

「だいち2号」観測データのSAR干渉解析による 令和8年熊本地震（2026年7月28日）に伴う地殻変動

日奈久断層帯の北西部では最大約50cmの衛星に近づく変動、南東部では最大約10cmの衛星に近づく変動が見られます。

※東側上空からの観測のため、衛星に近づく変動は東向きの変動又は隆起を示しています。

2025年8月12日～2026年7月28日



1回目観測日	2025-08-12 (だいち2号)
2回目観測日	2026-07-28 (だいち2号)
観測時刻	23:30頃
取得間隔	350日間
衛星進行方向	北行
電波照射方向	左(西)
観測モード*	U-U
入射角	48.3°
偏波	HH
垂直基線長	+ 139m

* U：高分解能(3m)モード

背景：地理院地図 標準地図・陰影起伏図・傾斜量図

本解析で使用したデータは、JAXAとの協定及び地震活動SAR解析ワーキンググループの活動を通して得られたものです。
対流圏遅延補正には、気象庁数値予報格子点データを使用しています。

令和8年熊本地震（7月28日 M7.1）の震源断層モデル(暫定)

基準期間：2026年7月21日 15:00 – 2026年7月28日 14:59 JST（迅速（Q5.1）解）
比較期間：2026年7月28日 18:00 – 2026年7月29日 05:59 JST（迅速（Q5.1）解）
固定局：上対馬（950456）

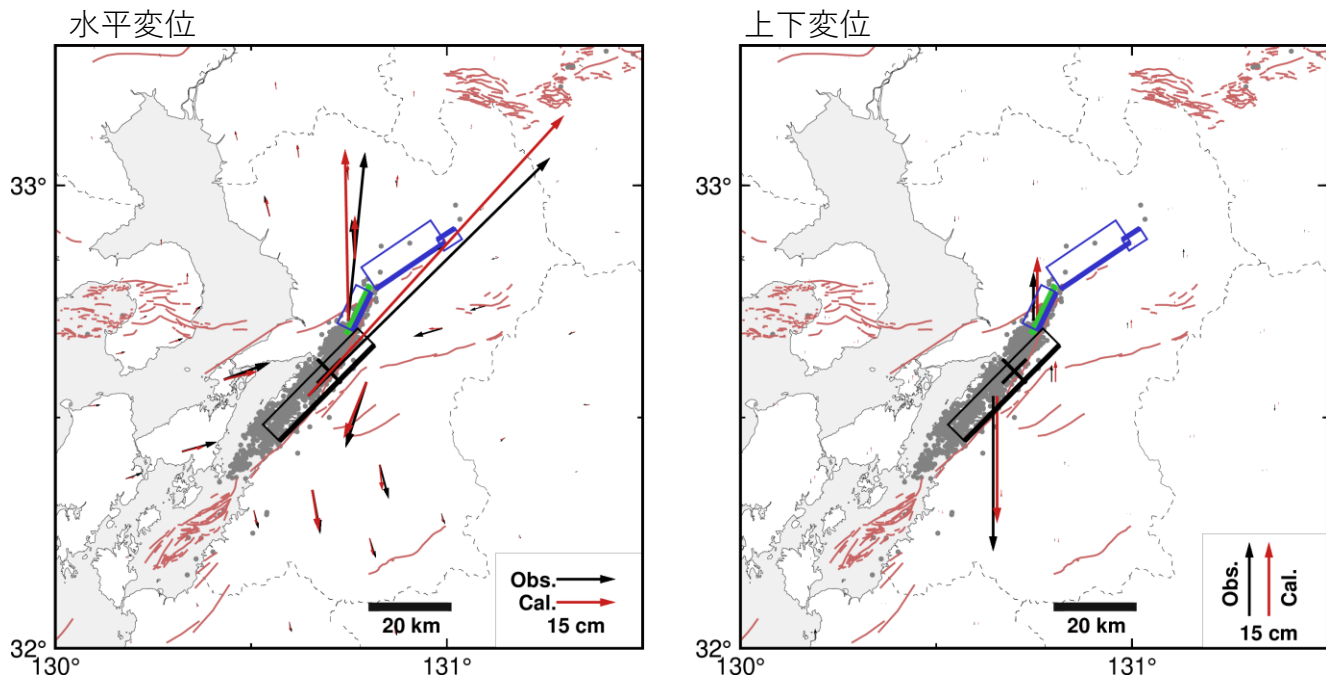


図1 推定された震源断層モデル。点は本震発生から7月29日05:59までに発生した震源（気象庁自動震源）。黒矩形は推定された震源断層モデル。緑矩形と青矩形は、平成28年（2016年）熊本地震（4月14日M6.5と4月16日M7.3）の震源断層モデル（矢来・他 2016）を示す。太線は断層上端を示す。矢印は変位の観測値（黒）及び計算値（赤）を示す。×印は今回の地震の震央。赤線は主要活断層帯を示す（地震調査研究推進本部より）。

表1 推定された震源断層モデルパラメータ。

緯度 [度]	経度 [度]	上端深さ [km]	長さ [km]	幅 [km]	走向 [度]	傾斜 [度]	すべり角 [度]	すべり量 [m]	Mw
32.655 (0.031)	130.810 (0.424)	1.20 (0.923)	32.37 (8.73)	7.86 (3.00)	223.85 (6.81)	41.62 (12.24)	-161.69 (8.95)	2.16 (0.90)	6.81

VR: 95.37%

- 震源断層モデルのパラメータはマルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法を用いて推定した。
- 位置は断層の左上端を示す。括弧内は誤差（1σ）を示す。
- Mwの計算においては、剛性率を40GPaと仮定した。

2026年7月28日16時27分頃に熊本県で発生した地震（Mj 7.1; 気象庁）について、強震波形記録を用いた震源インバージョン解析を行った。

- 記録：K-NET・KiK-net・F-netの15観測点における速度波形三成分のS波部分（0.08–0.8 Hz）
- 解析手法：マルチタイムウィンドウ線形波形インバージョン
（小断層2 km × 2 km、0.8秒幅のタイムウィンドウを0.4秒ずらして9個並べる）
- 断層面設定：走向211°・傾斜76°（F-net解による）、大きさ28 km × 16 km、破壊開始点はHi-net震源位置
*ここで設定した断層面は解析の都合上仮定したものであり、必ずしも実際の断層面を反映しているわけではないことに留意
- 推定結果： $M_0 = 2.2 \times 10^{19}$ Nm（ M_w 6.8）、最大すべり量5.2m、Vftw 1.6 km/s
主たる破壊は破壊開始点から浅部に向かって伝播した後、南南西に向かった。

図1：観測点の分布と断層面の地表投影。星印は破壊開始点を示す。

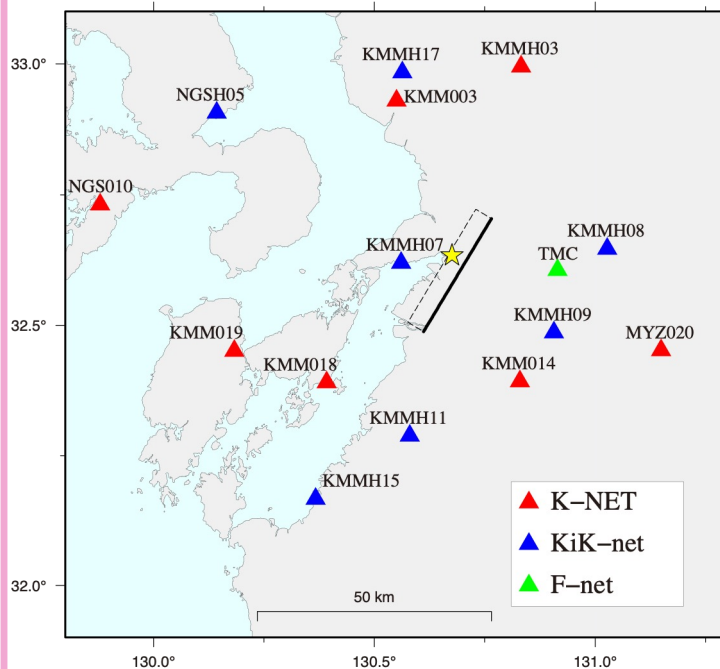


図2：2026年7月28日令和8年熊本地震のすべり分布の地表投影をカラーで、破壊開始点を黒星で示す。灰色の丸は地震発生から12時間以内に発生した $M \geq 2.5$ の地震の震央を表す。

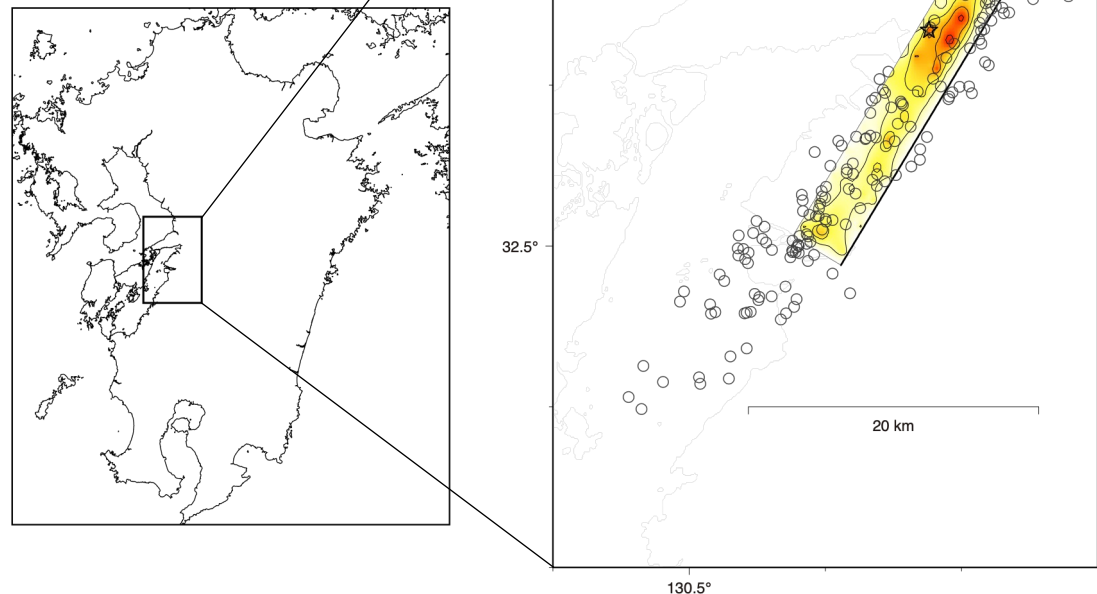


図3：断層面上の最終すべり分布図。ベクトルは上盤のすべり方向とすべり量を、星印は破壊開始点を示す。コンターは1.2m毎のすべり量を示す。

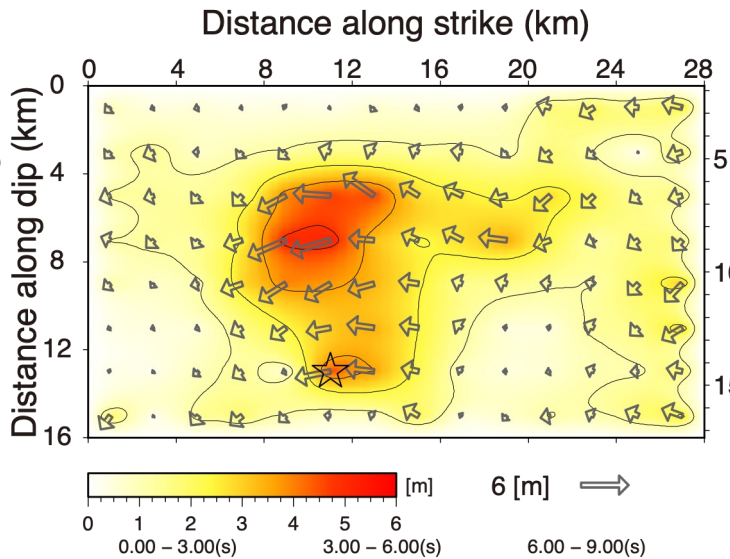


図4：破壊の時間進展過程。3.0秒ごとのすべり分布を地表投影している。コンターは0.8m毎のすべり量を示す。

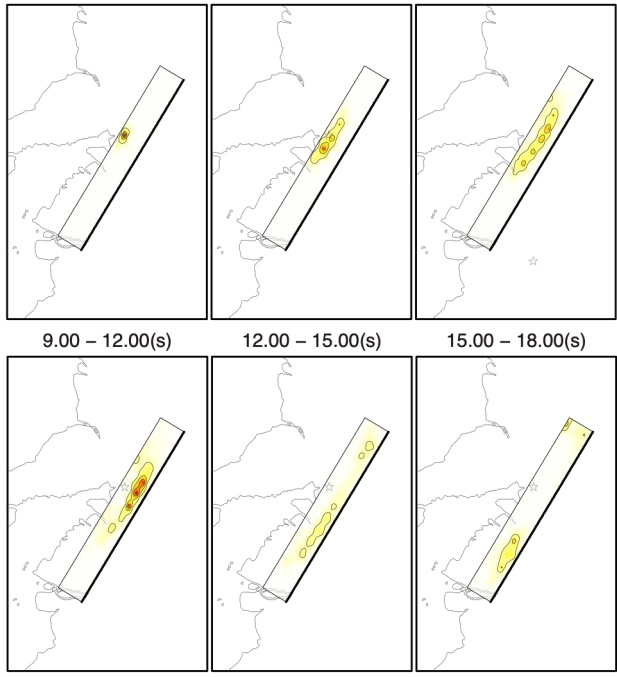


図5：観測波形（黒線）と理論波形（赤線）の比較。波形の右上にそれぞれの最大値を示す。

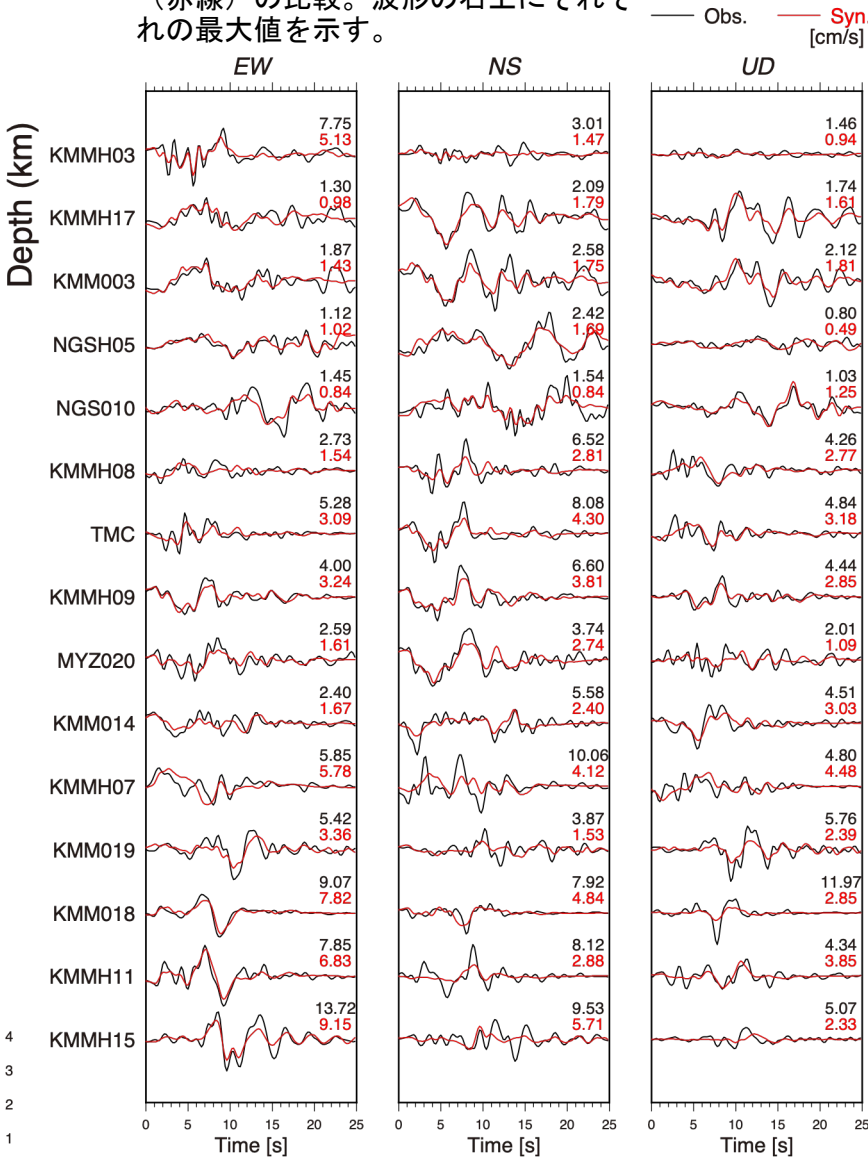
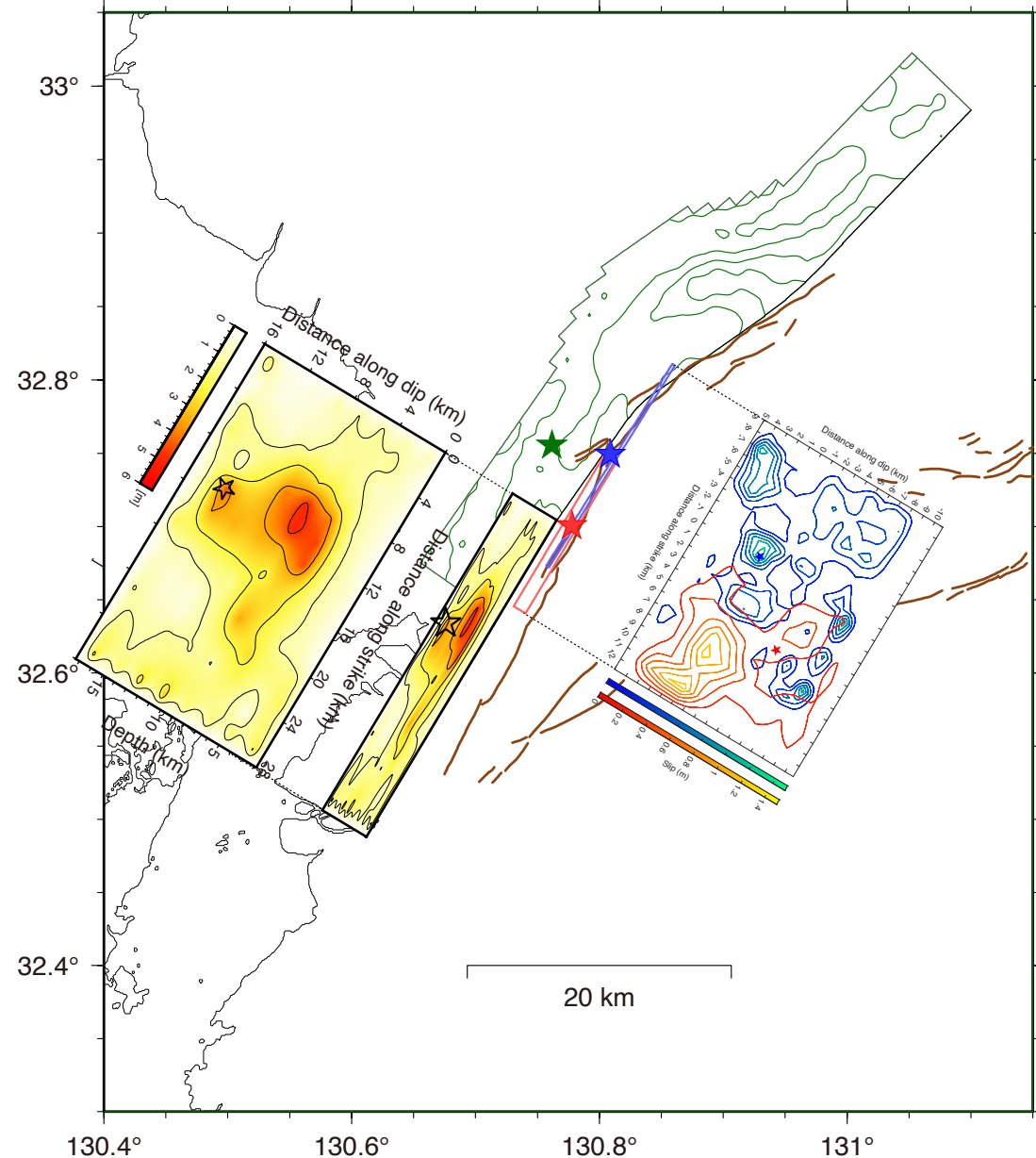


図6：令和8年熊本地震のすべり分布と過去の大規模地震のすべり分布の空間比較。令和8年熊本地震のすべり分布の地表投影をカラーで、破壊開始点を黒星で示す。黒のコンターは1.2m毎のすべり量を示す。2016年4月16日1時25分頃に発生したM_j7.3の平成28年熊本地震の震央を緑の星で、すべり分布を緑のコンターで示す(Kubo et al., 2016, EPS)。緑のコンターは0.8m毎のすべり量を表す。青の星と矩形は2016年4月14日21時26分頃に発生したM_j6.5の地震の震央と断層面を表す。赤の星と矩形は2016年4月15日0時3分頃に発生したM_j6.4の地震の震央と断層面を示す。青と赤のコンターはそれぞれM_j6.5の地震とM_j6.4の地震の0.2m毎の断層すべり分布を表す(Shibata and Aso, 2025, BSSA, 図11に加筆修正)。紫線はAIST (2007)による活断層の地表トレースを表す。



強震波形記録による令和 8 年熊本地震の震源過程(暫定)

- 地震モーメント 2.1×10^{19} Nm (M_w 6.8)、平均すべり量 0.8 m、最大すべり量 2.4 m
- 第 1 タイムウィンドウフロントの破壊伝播速度 2.8 km/s
- 大きなすべりは、破壊開始点から浅部に向かって拡がり、南北約 12 km の範囲に集中
- 仮定した断層面の南西部でのすべり量は小さく、南端の設定については精査が必要な可能性あり

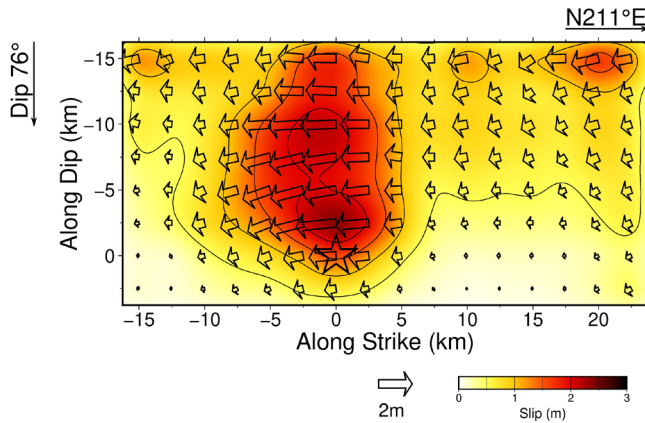


図 1: 断層面上の最終すべり分布
(☆は破壊開始点、断層面は解析上設定したもの)

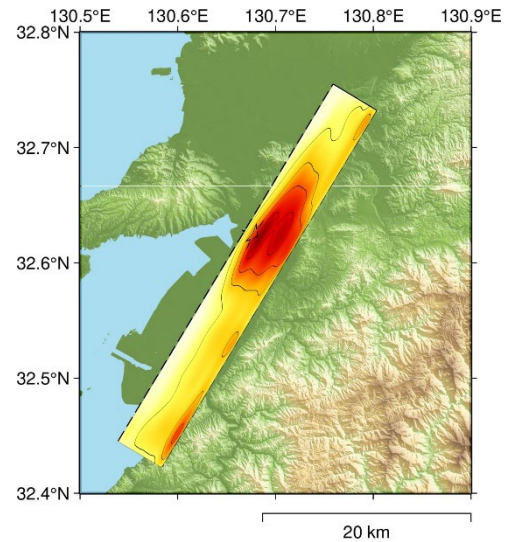


図 2: すべり分布の地表投影

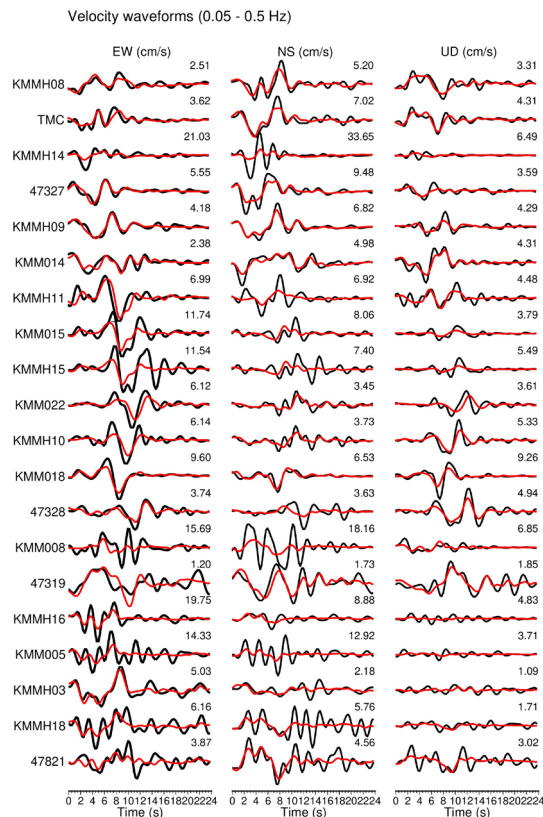


図 3 速度波形(0.05~0.5 Hz)の比較
(黒:観測、赤:合成)

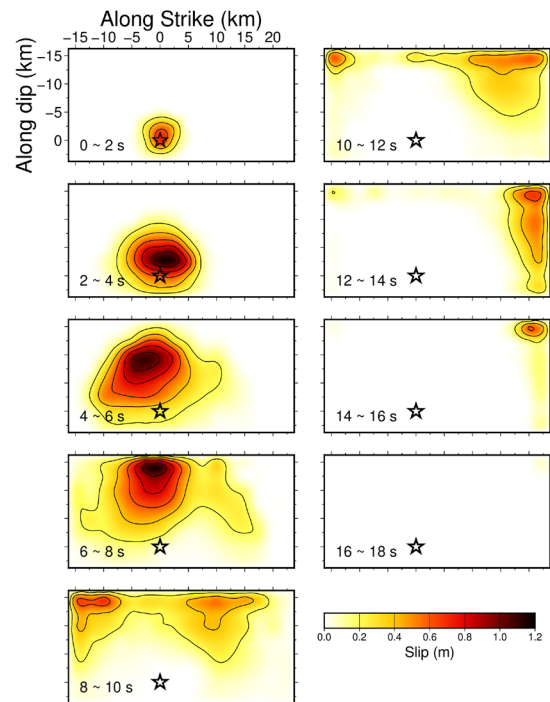
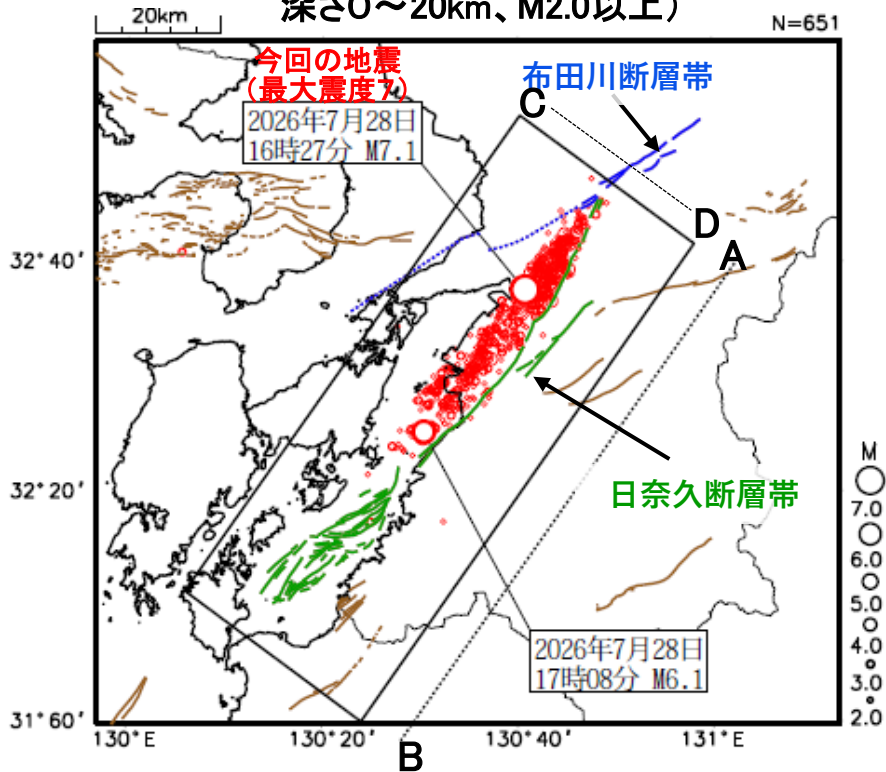


図 4: 2 秒ごとのすべりのスナップショット

(発生場所の詳細)

震央分布図

深さ0～20km、M2.0以上)

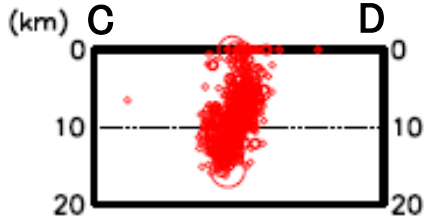


震央分布図中の青、緑、茶色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

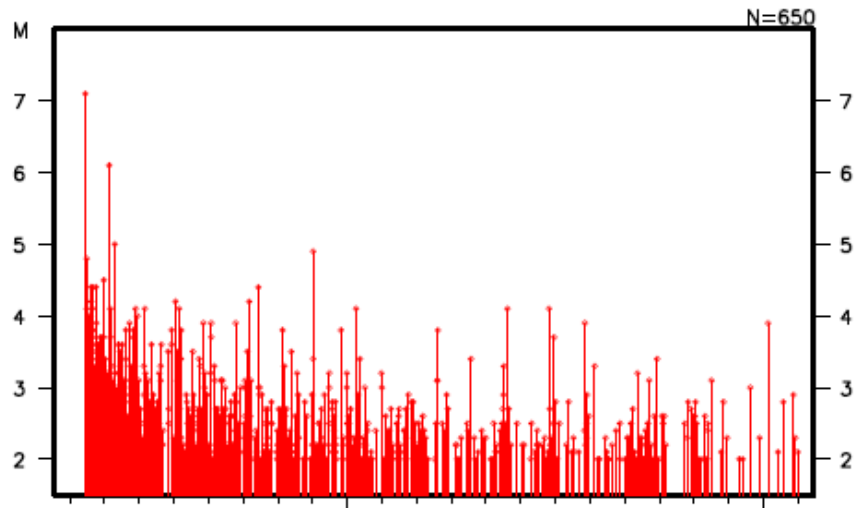
震源は未精査のものを含む

丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

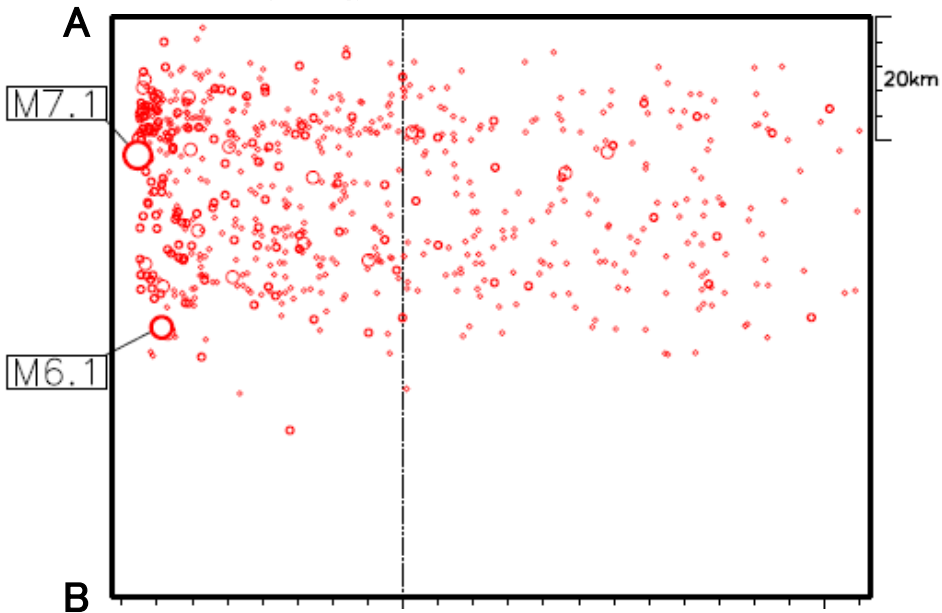
上図の四角形領域内の断面図(C-D投影)



左図の四角形領域内の地震活動経過図



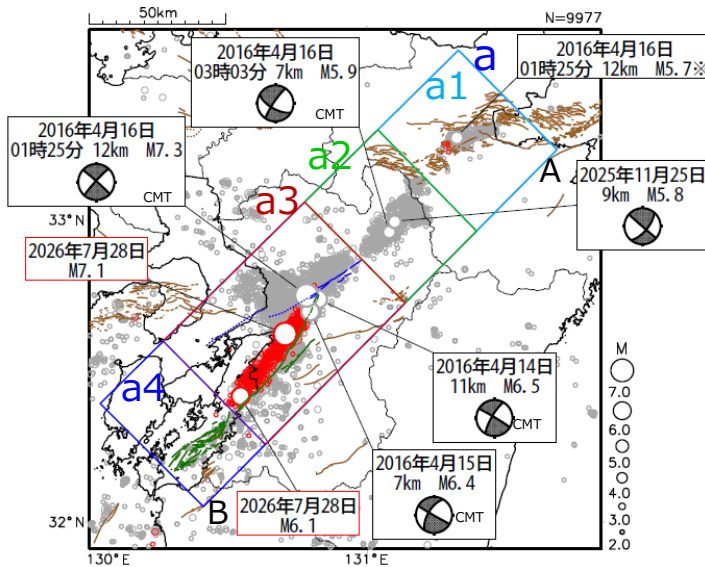
左図の四角形領域内の時空間分布図(A-B投影)



「平成28年（2016年）熊本地震」以降の地震活動

震央分布図

2016年4月14日21時00分～2026年7月29日13時00分、
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$

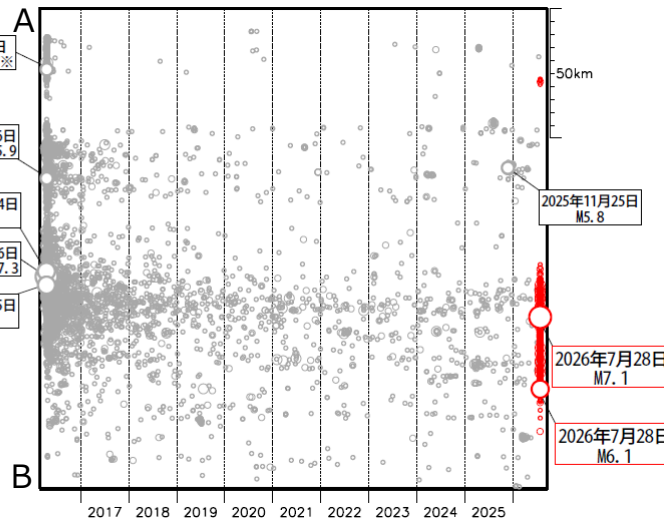


- 2026年7月28日以降の地震を赤色で表示
- 震央分布図中の茶色・青色（布田川断層帯）・緑色（日奈久断層帯）の実線または破線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

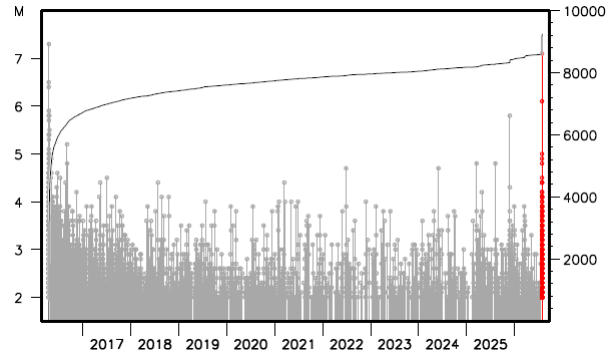
※ 2016年4月16日01時25分 $M7.3$ の地震の発生直後に発生した地震であり、 M の値は参考値

震源は未精査のものを含む

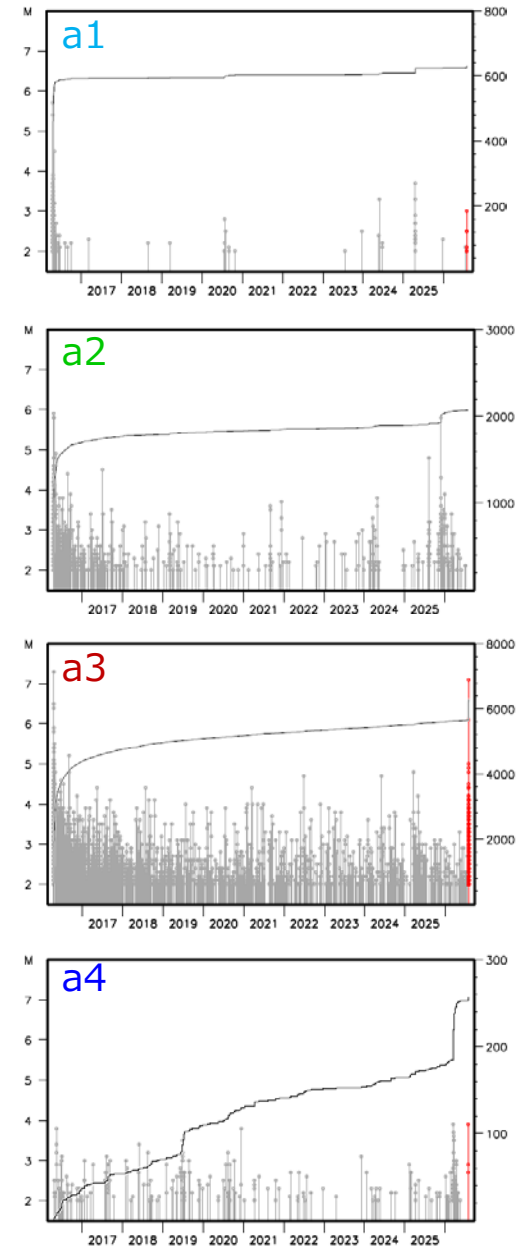
領域a内の時空間分布図（A-B投影）



領域a内のM-T図及び回数積算図



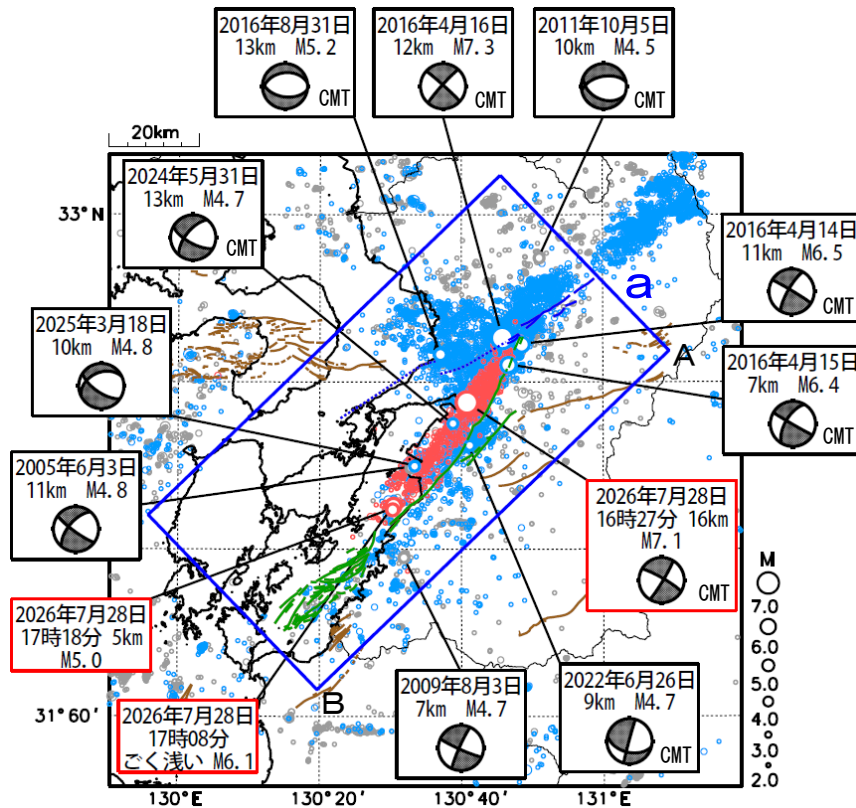
領域a1～a4内のM-T図及び回数積算図



「令和8年熊本地震」日奈久断層帯周辺の地震活動（2000年10月以降）

（2000年10月1日～2026年7月29日13時、深さ0～20km、 $M \geq 2.0$ ）

震央分布図

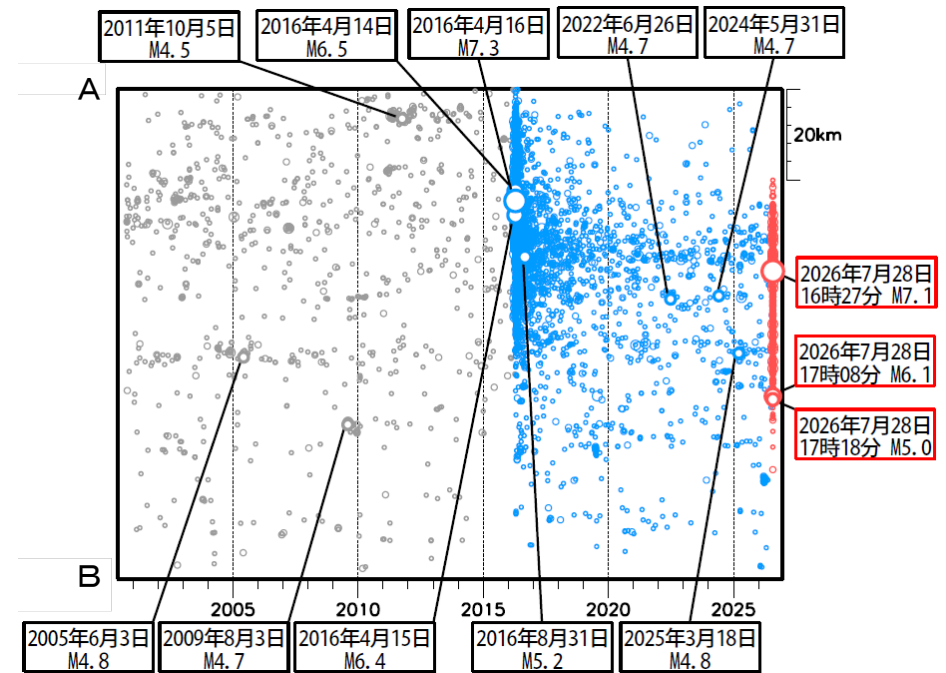


- ：2016年4月14日21時26分～2026年7月27日16時26分
- ：2026年7月28日16時27分～
- ：その他の期間

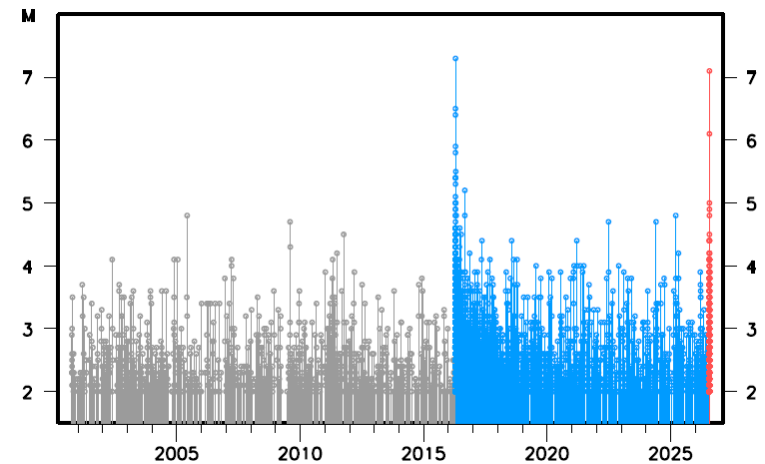
2026年7月29日の震源データは未精査

震央分布図中の青、緑、茶色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

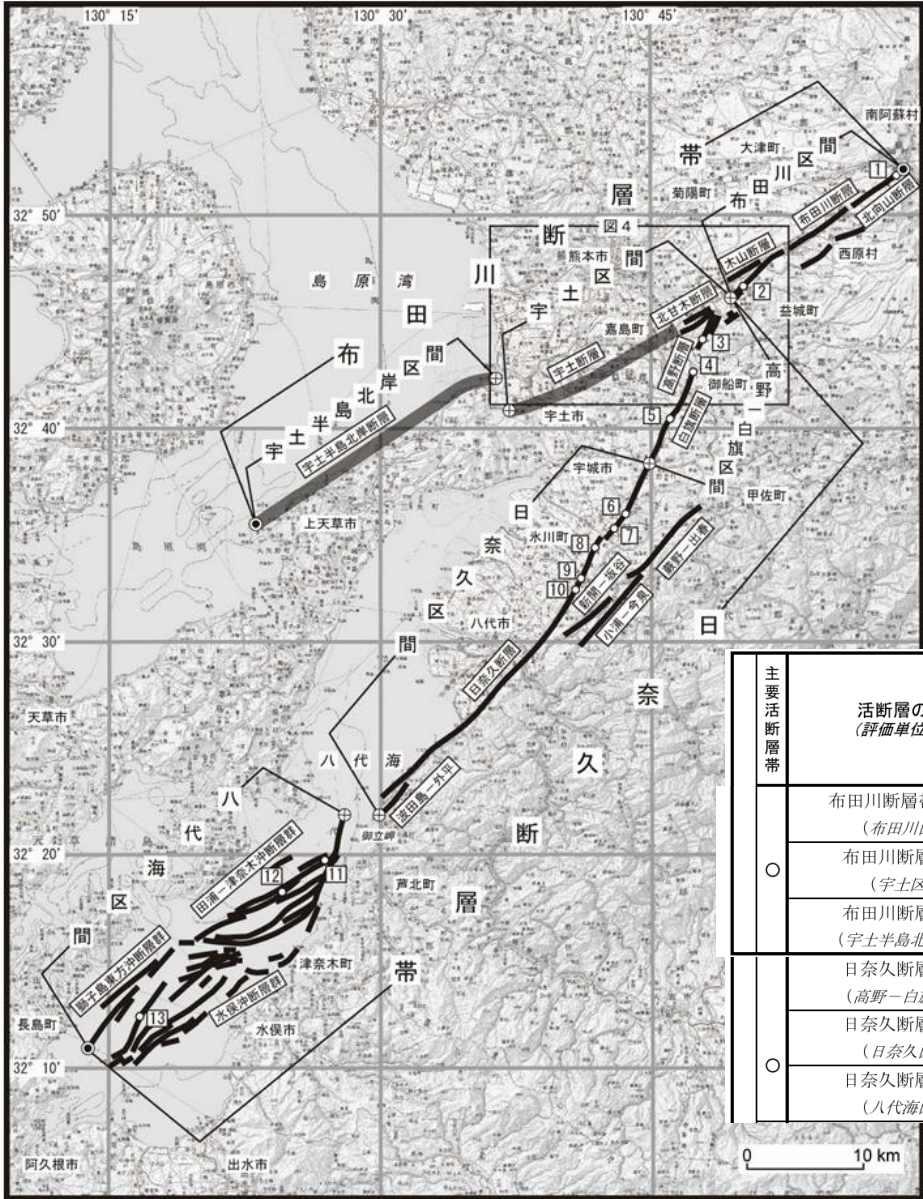
領域a内の時空間分布図（A－B投影）



領域a内のM－T図



布田川断層帯・日奈久断層帯の長期評価



1: 白川左岸地点 2: 田中地点 3: 高木地点 4: 白旗地点 5: 鰐瀬地点 6: 南小野地点 7: 南部田地点 8: 高塚B地点 9: 腹巻田地点 10: 梶地点 11: 八代海白神岩地点 12: 八代海津奈木沖地点 13: 八代海南西部海底地点

●: 断層帯の北東端と南西端 ⊕: 活動区間の境界

活断層の位置は活断層研究会編(1991)、熊本県(1998b)、池田ほか(2001)、中田ほか(2001)、産業技術総合研究所・地域地盤環境研究所・東海大学(2011)及び地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会活断層分科会による重力異常・地質構造の検討結果に基づく。

基図は国土地理院発行数値地図200000(地図画像)「熊本」「八代」を使用。網掛線は、重力異常、ボーリングや音波探査により位置が特定された活断層。

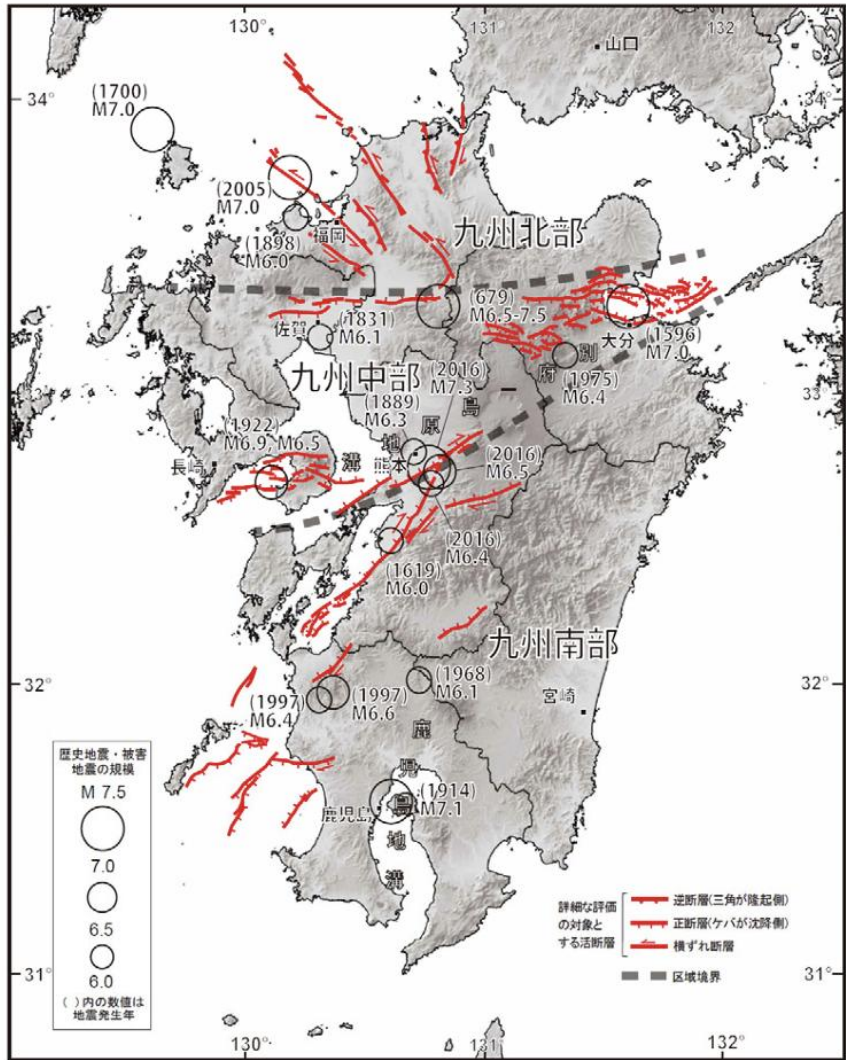
「今までに公表した活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」
(算定基準日：令和8年1月1日)

主要活断層帯	活断層のくくり (評価単位区間)	各区間が単独で活動する場合の地震の規模 (M)	複数区間が同時に活動する場合の地震の規模 (M)	我が国の主な活断層における相対的評価 (注4)			地震後経過率 (注2)	平均活動間隔
				地震発生確率 (注1)				最新活動時期
				30年以内	50年以内	100年以内		
○	布田川断層帯 ^{(注12)(注13)} (布田川区間)	7.0程度	7.5-7.8 程度以上 ^{※1}	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	8,100年-26,000年程度 ^(注14) 平成28年(2016年)熊本地震 ^(注13)
	布田川断層帯 ^(注12) (宇土区間)	7.0程度	・	Xランク	不明	不明	不明	不明
	布田川断層帯 ^(注12) (宇土半島北岸区間)	7.2程度以上	7.8-8.2 程度 ^{※2}	Xランク	不明	不明	不明	不明
○	日奈久断層帯 ^(注12) (高野-白旗区間)	6.8程度	7.7-8.0 程度 ^{※3}	Xランク	不明	不明	不明	不明
	日奈久断層帯 ^(注12) (日奈久区間)	7.5程度	・	S*ランク	ほぼ0%～6%	ほぼ0%～10%	ほぼ0%～20%	約1,600年前以後、約1,200年前以前 3,600年-11,000年程度
	日奈久断層帯 ^(注12) (八代海区間)	7.3程度	7.8-8.2 程度 ^{※4}	S*ランク	ほぼ0%～16%	ほぼ0%～30%	ほぼ0%～50%	約8,400年前以後、約2,000年前以前 1,100年-6,400年程度 約1,700年前以後、約900年前以前

※1 布田川断層帯全体が同時に活動した場合
※2・※4 日奈久断層帯全体と布田川断層帯布田川区間が同時に活動した場合
※3 日奈久断層帯全体が同時に活動した場合

図2 布田川断層帯・日奈久断層帯の活断層位置と調査地点

九州地域の活断層の長期評価



地域区分	地域の長期評価 (M6.8以上、30年確率) (%) (注17、注18、注19)	
	区域別の確率値	九州全域の確率値
	95%信頼区間(中央値) (注20)	
九州北部	7～13 (9)	30～42 (35)
九州中部	17～27 (注21) (21)	
九州南部	7～18 (8)	

注17: 個別の活断層の長期評価では、地表に断層活動の痕跡が確認できる「固有地震」(※)の発生確率のみを評価している。一方、マグニチュードが6.8以上の地震でも明瞭な地表地震断層が出現しない場合や、出現しても長さやずれの量が活断層の長さなどから推定されるものに比べて有意に小さい場合があることを鑑み、本地域評価では、評価対象とした活断層において地表の証拠からは断層活動の痕跡を認めにくい地震の発生する確率も評価している(地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会、2010) (詳細は、本文 (https://www.jishin.go.jp/main/chousa/13feb_chi_kyushu/k_honbun.pdf) 注17 参照)。

※「固有地震」とは、同時に活動すると想定される「活断層帯」や「評価単位区間」(詳細は、本文 (https://www.jishin.go.jp/main/chousa/13feb_chi_kyushu/k_honbun.pdf) の「付録2-1 1回の地震に対応する断層の長さの評価の考え方」参照)の全体が活動する固有規模の地震のことである。Schwartz and Coppersmith (1984, 1986)が提唱したCharacteristic earthquake modelについて、垣見 (1989)が「個々の断層またはそのセグメントからは、基本的にほぼ同じ(最大もしくはそれに近い)規模の地震が繰り返し発生すること」と解釈しているものである。

地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会 (2010): 「活断層の長期評価手法(暫定版)」, 117p.
垣見俊弘 (1989): 固有地震説雑考, 活断層研究, 7, 1-4.
Schwartz, D. P. and Coppersmith, K. J. (1984): Fault behavior and characteristic earthquakes from the Wasatch and San Andreas faults, Jour. Geophys. Res., 89, 5, 681-5, 698.
Schwartz, D. P. and Coppersmith, K. J. (1986): Seismic Hazards — New Trends in Analysis Using Geologic Data. In Active Tectonics, National Academy Press, Washington, DC, pp. 215-230.

注18: 「詳細な評価の対象とする活断層」とは、地下を含めた断層の長さが15 km 程度以上で、断層の位置・形状や活動履歴など活断層の特性を詳細に評価したものである。「簡便な評価の対象とする活断層」は、地下を含めた断層の長さが10 km 程度以上、15 km 程度未満で、断層の分布のみを評価したものである。各区域及び九州全域における今後30 年間に発生するM6.8 以上の地震発生確率には、「詳細な評価の対象とする活断層」に基づく確率だけでなく、「簡便な評価の対象とする活断層」に基づく確率も含まれている(詳細は本文 (https://www.jishin.go.jp/main/chousa/13feb_chi_kyushu/k_honbun.pdf) (説明)「3. 九州地域の活断層で発生する地震の長期評価」を参照)。

注19: 九州地域の活断層の長期評価(第一版)(地震調査研究推進本部地震調査委員会、2013)時点での活断層区分に基づき算出。

地震調査研究推進本部地震調査委員会 (2013): 「九州地域の活断層の活断層の長期評価(第一版)」, 81p.

注20: 確率値は、本文 (https://www.jishin.go.jp/main/chousa/13feb_chi_kyushu/k_honbun.pdf) 「付録4-3 評価地域の地震の発生確率の幅の統計的扱い」に基づく。

注21: (注13)を反映して算出。

九州地域において詳細な評価の対象とする活断層のずれの向きと種類及び九州地域で発生した歴史地震・被害地震の震央

地震調査委員会「九州地域の活断層の長期評価(第一版)」より